

水泳

水

66

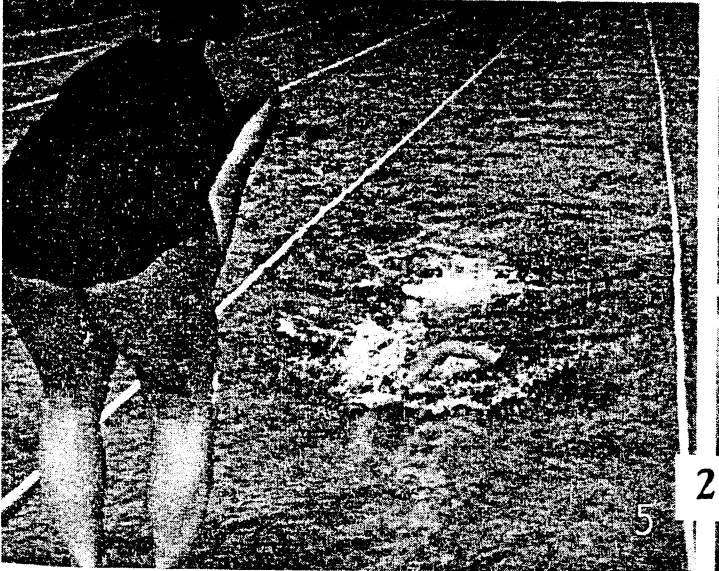
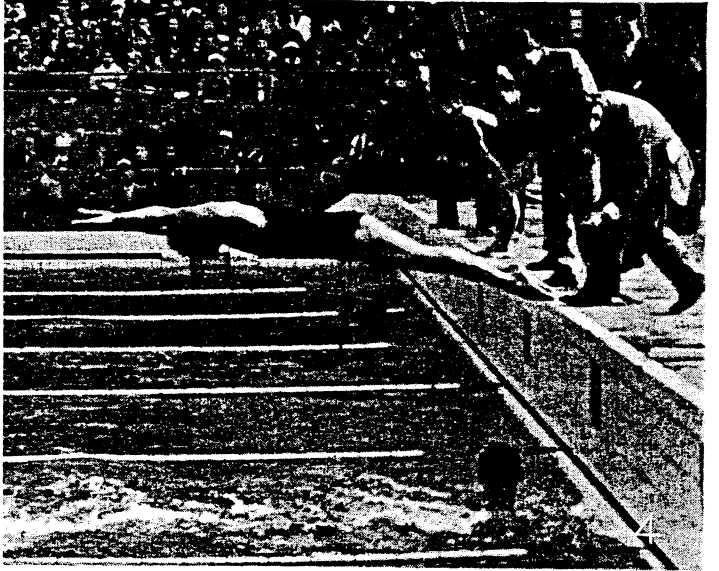
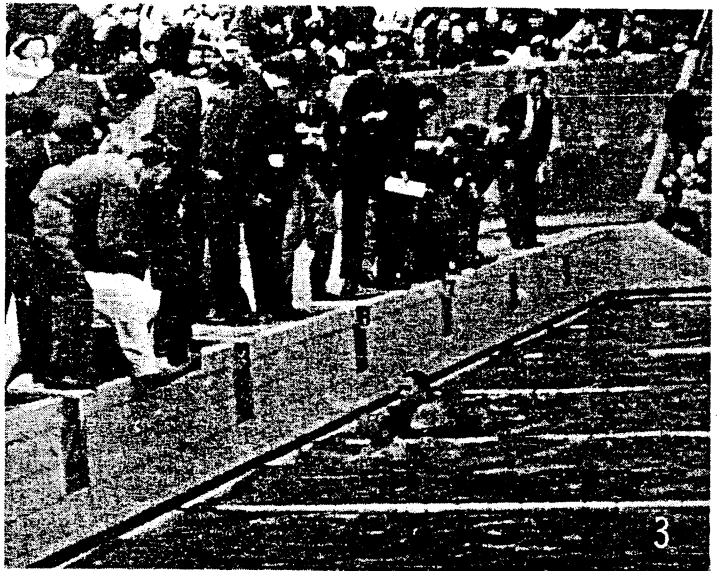
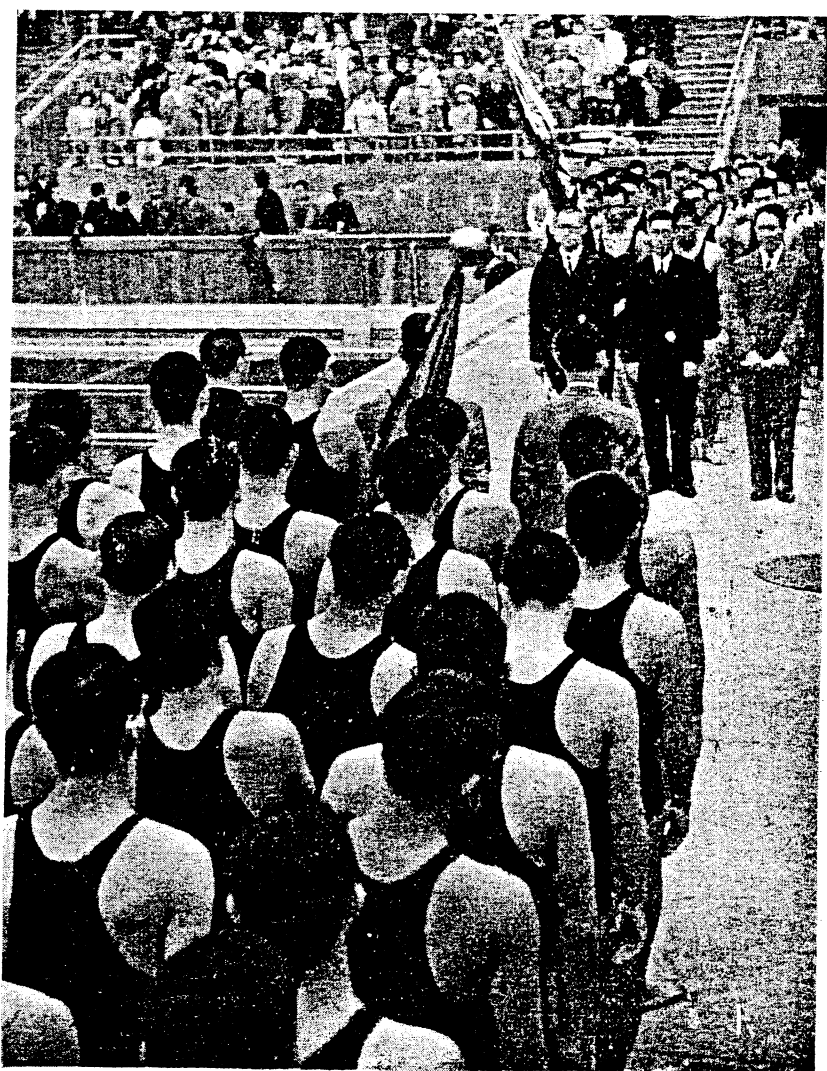
日本水泳上競技聯盟機関雜誌

水 泳

昭和十四年・第六十六號

目 次

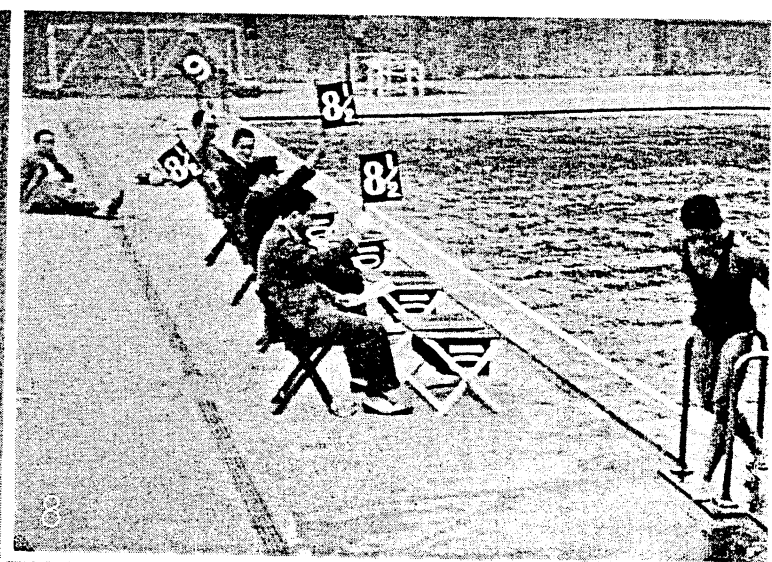
早慶水のスナツプ	(2)
三大學水の争覇戦	(4)
四大學對抗水上競技	齋 藤 巍 洋 (6)
最近の水泳界	松 浦 武 雄 (8)
第二回團體長距離競泳大會	(10)
十四年度クラス選手詮衡第一回發表	(11)
渡河泳法考	杉 本 傳 (12)
飯田光太郎氏遺稿出版成る	(13)
第二回全國高專選手權水上競技大會	松 浦 武 雄 (14)
クロールは何故早い	田 中 登 (16)
クロールの必然性	(17)
ワイスミュラーの泳ぎ	B a c h r a c h (18)
海外水泳情報	小 山 賢 之 助 (19)
第二回國民皆泳全國學童大會	(21)
水泳指導者協會第二回定期總會	(24)
十四年度水泳指導者講習會	(25)
十四年度水泳指導者資格檢定	(26)
本聯盟役員出征者の通信(六)	(29)
臨時代議員會議事録	(30)
水上競技聯盟日誌、編輯後記	(32)



☆ 水 の 早 慶

1. 第十三回早慶對抗水上競技大会入場式
2. 二百米自由形決勝のゴール
 (慶大高橋、早大杉浦、慶大島本の順)
3. 二百米平泳決勝のゴール(慶大長久、早大古川)
4. 八百米リレー早大チームの引継ぎ
5. 八百米リレー慶大チームの引継ぎ
6. 八百米リレー優勝の早大チーム
 (宮本、吉田、田中、杉浦の四選手)

[目次に戻る](#)

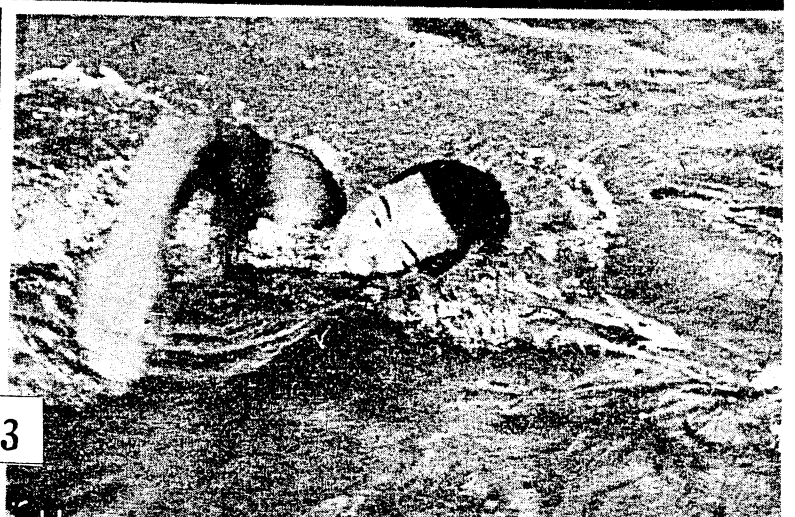
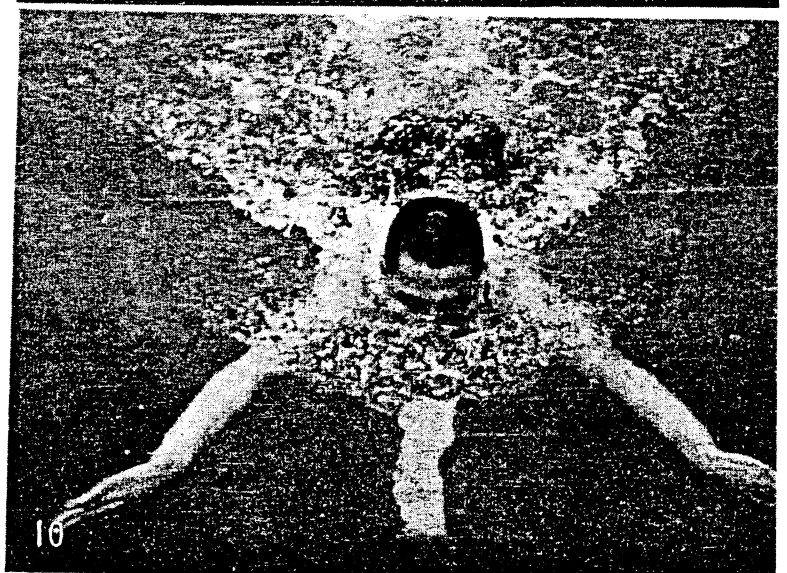


スナツプ☆



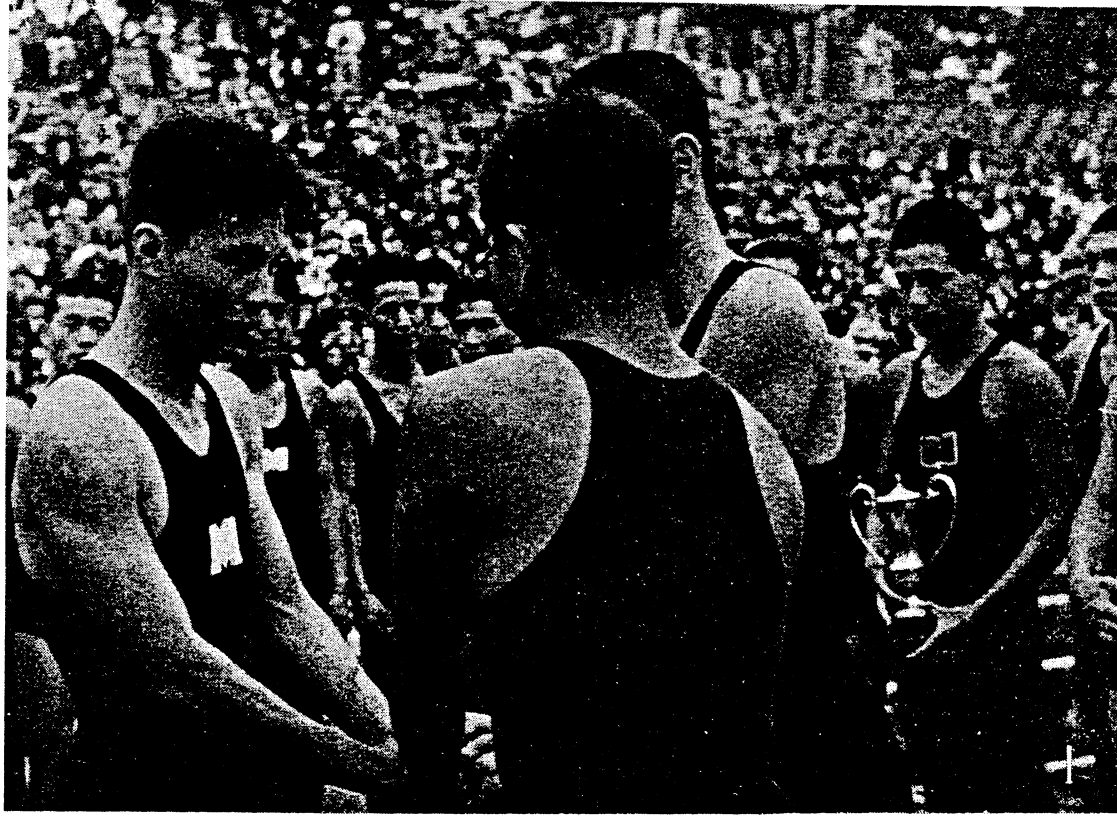
- 7. 早大飛込のホープ小柳選手
- 8. 飛込終った大会当日の小柳選手
- 9. 早大のベテラン田中選手の力泳
- 10. 慶大の平泳選手長久君
- 11. 早大の新人、期待大なる宮本選手のフォーム
- 12. 早大の新人、宇田選手の一時

撮影 柴田隆二氏

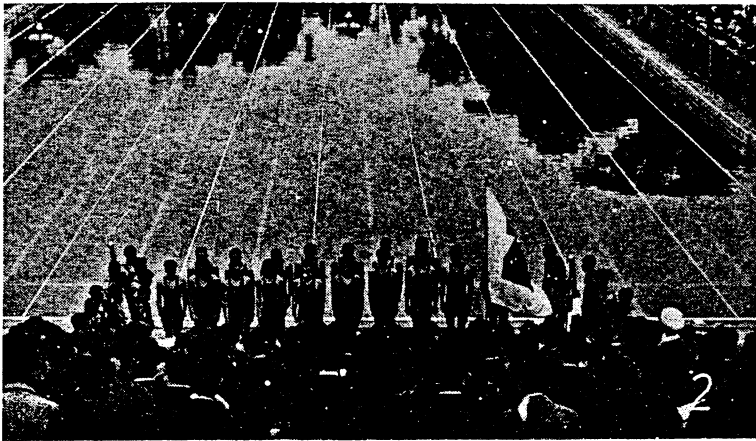




三 大 學 水



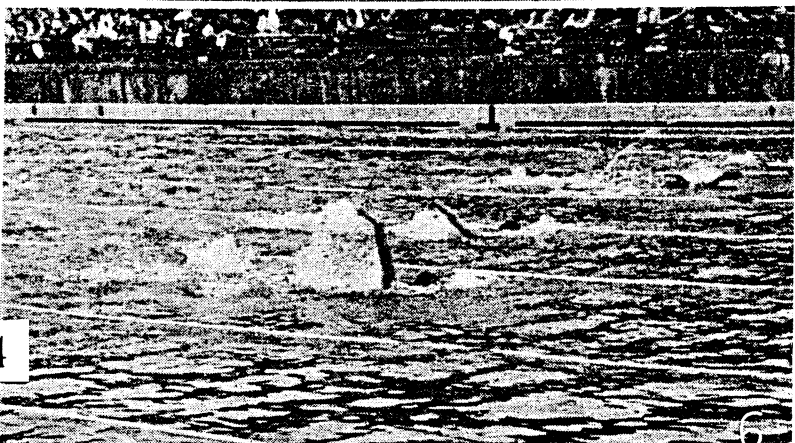
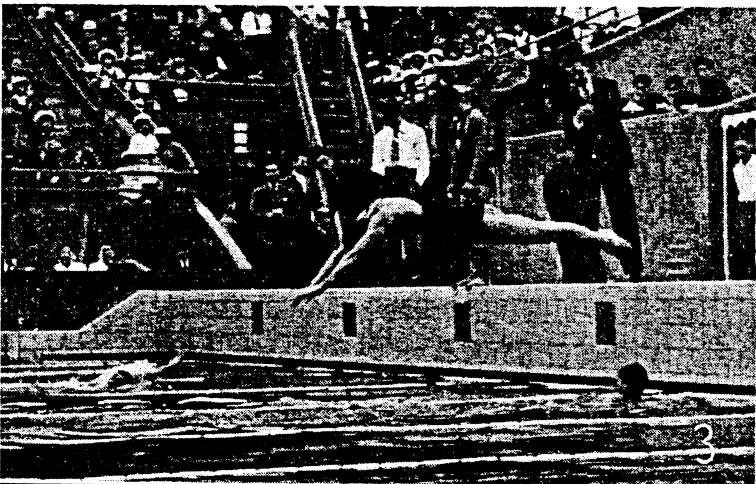
フ



1. 三大學主將の握手（日大葉室，立大鶴藤，明大野田）
2. 大會当日の入場式
3. 三百米メドレーリレー，日大谷口選手より引継ぐ葉室選手）
4. 日大葉室主將の力泳
5. 二百米平泳葉室選手のゴールイン
6. 百米背泳決勝途中七十米邊り

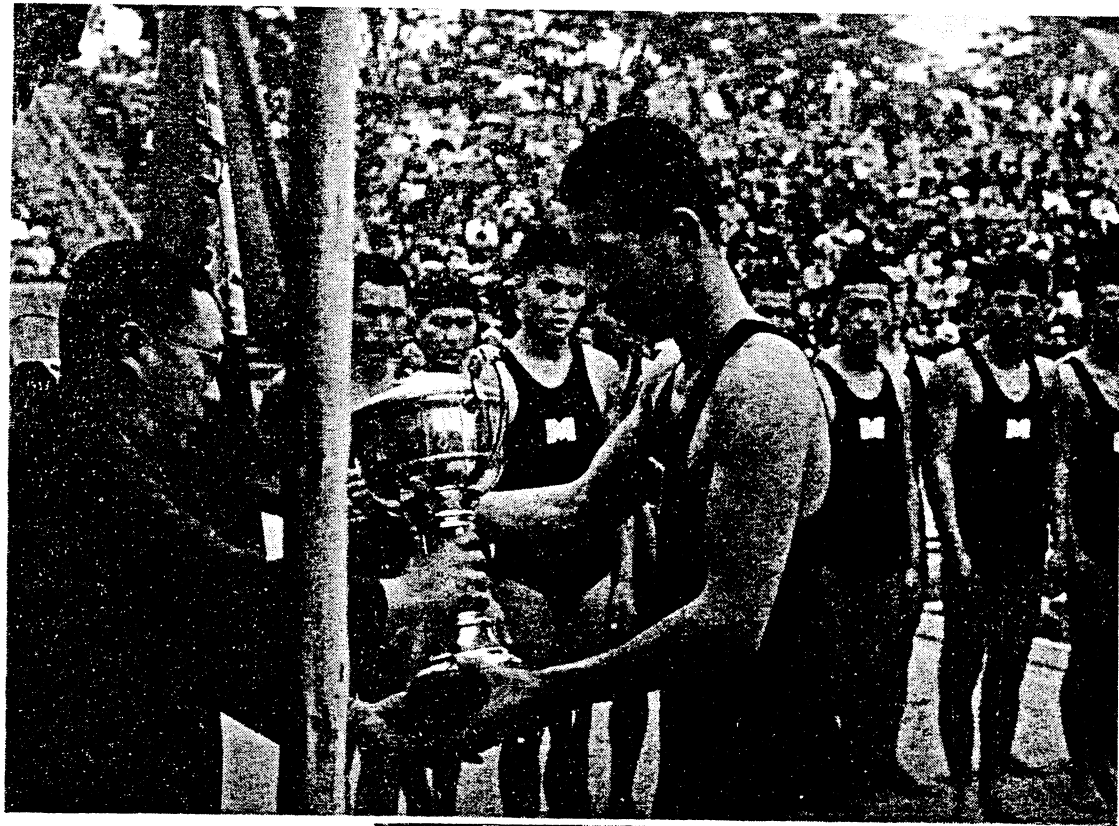
目次に戻る

撮影 柴田隆二氏（カット 天野選手）





の 争 覇 戦



7. 優勝校日大チーム代表葉室主將トロフィーを授く

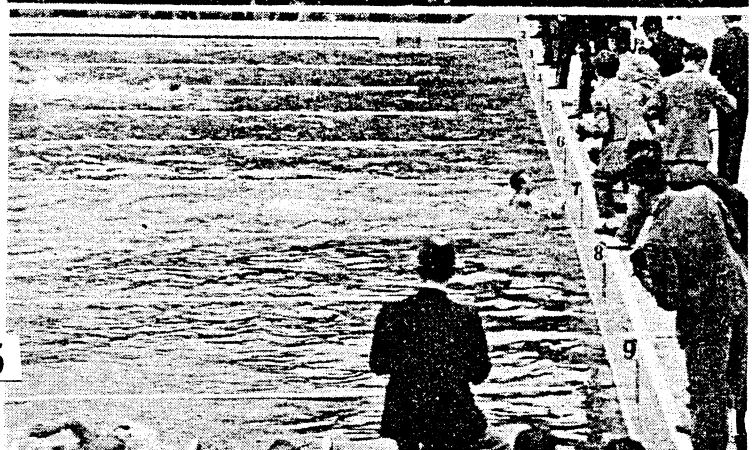
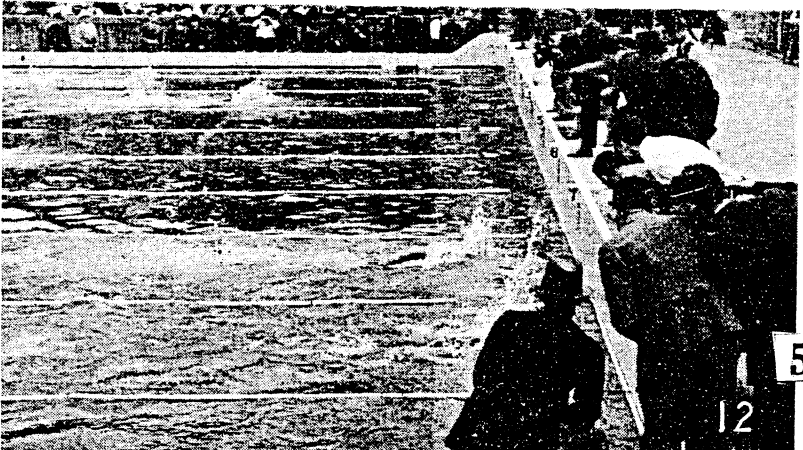
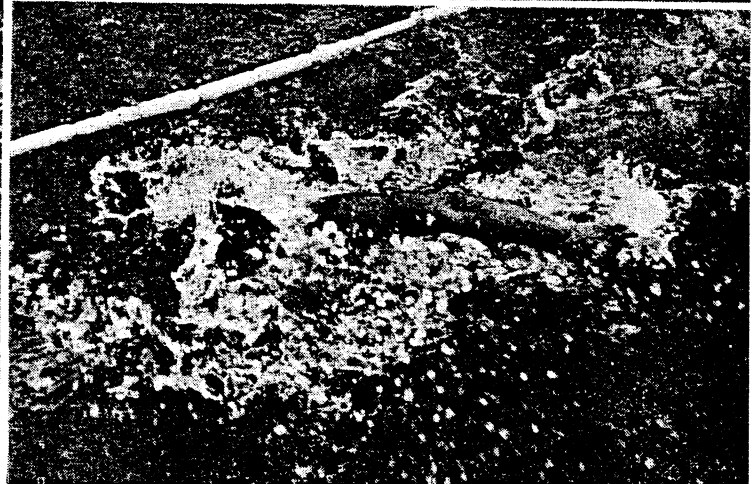
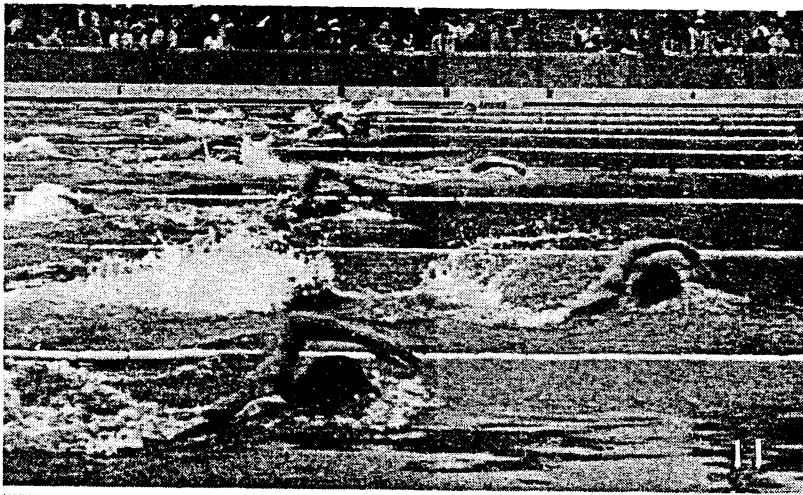
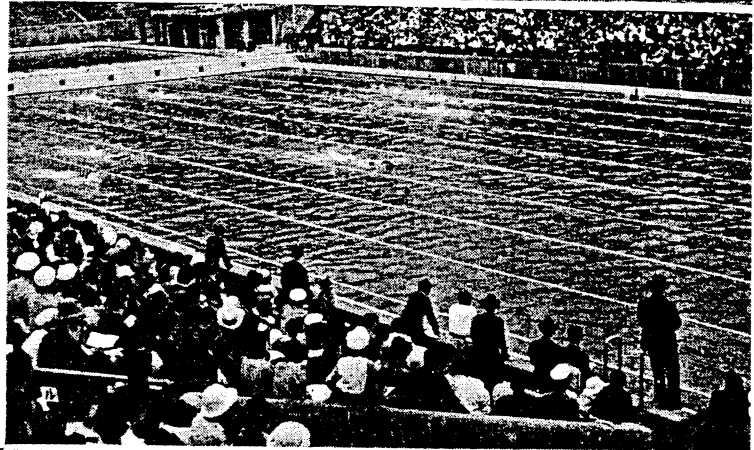
8. 四百米自由形途中三百七十米トップは日大天野選手

9. 四百米自由形に力泳する日大栗原選手

10. 四百米自由形決勝のゴール日大天野, 栗原, 越戸の順

11. 八百米自由形決勝スタート後三十米邊り

12. 二百米自由形決勝のゴール(日大佐々木, 立大鶴藤の競合ひ)





(日大、葉室選手)



(日大、天野選手)

四大學對抗水上競技を見て

[目次に戻る](#)

日本水上競技聯盟 齋藤 巍 洋

帝都に於けるビッグレースの一つ三大學(日大、立教、明大)水上競技大會も六月十一日に終へ更に關西に於て本年度より之に關大を加へて四大學對抗水上競技大會を鳴尾甲子園プールで舉行した。大會当日は氣温二十六度水温二十三度・五と云ふ絶好のコンディションで大會劈頭先づ四百米自由形に始まり日大栗原の好調により四分五十七秒で日大軍に凱歌が擧つた。此大會に出場の選手達は一週間前三大學對抗競技(神宮プール)終了後でも有り其上遠征への試鍊ともなつた當大會では有つたが全種目を通じて三種目迄大會新記録を得た事はシーズンの劈頭に行く本大會の大なる收穫と云つてよからう。大會新記録即ち、

☆二百米平泳では日大葉室は非常な好調振りを見せ前半百米を一分十六秒・六で入つたが之は世界記録を作るには不十分なペースであつた、其爲二分四十一秒・四に止つたが後半のすべりの鋭さは我平泳陣を世界の望みにかけるに充分で有つた。第二位大浦(立教)の二分四十五秒・二も好記録で有り前半の出足如何では四十四秒代の期待は容易の事であり、其期待も近きにある感がある。

☆百米背泳では日大谷口が一分十秒を割つて九秒八と云ふ慶應兒島に迫る強みを見せた。其他、坂本平

賀(立教)河野(日大)等いづれも好調を得ず平凡に終始した。

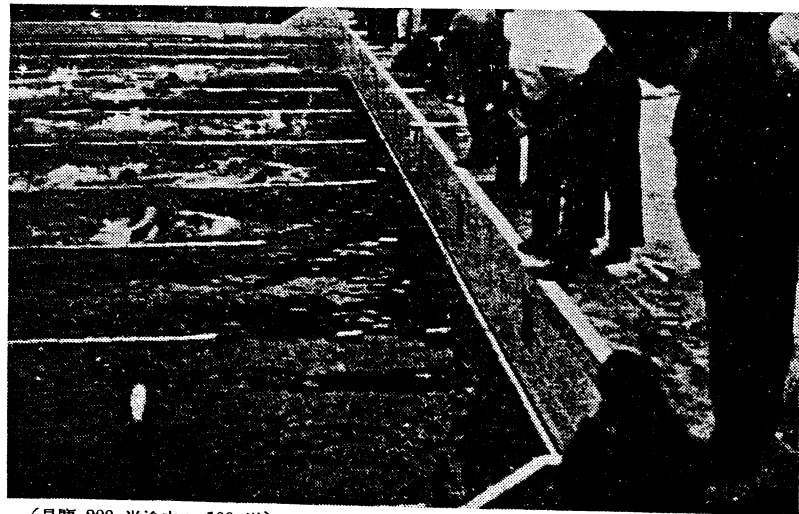
☆次の千五百米自由形では病氣で氣づかはれてゐた日大天野が六百米まで立教本間をペースメーカーとして軽く泳ぎ然も四百米途中計時五分六秒で有つた、其後に綺麗に水に乗り八百米途中計時十分二十五秒四と示して終に十九分四十二秒・八の大會新記録を出した。他はいづれも二十分を割り得ず本間(立教)越戸(日大)岩切(立教)河野(明大)安立(明大)の順は先づ順當の所であらう。

☆百米自由形短距離陣は何と云つても五十七秒、代を地で行く立教の新井の不参加で依然不調であり期待した佐々木(日大)も前半二十八秒・八と云ふ短距離選手としては考へられない程の出足悪さと右肩が落ちる不調子さはまだまだ精進と努力が必要だ之に續き大崎、本田(立教)の六十二秒代は他種目に比べて好記録とは云へない。

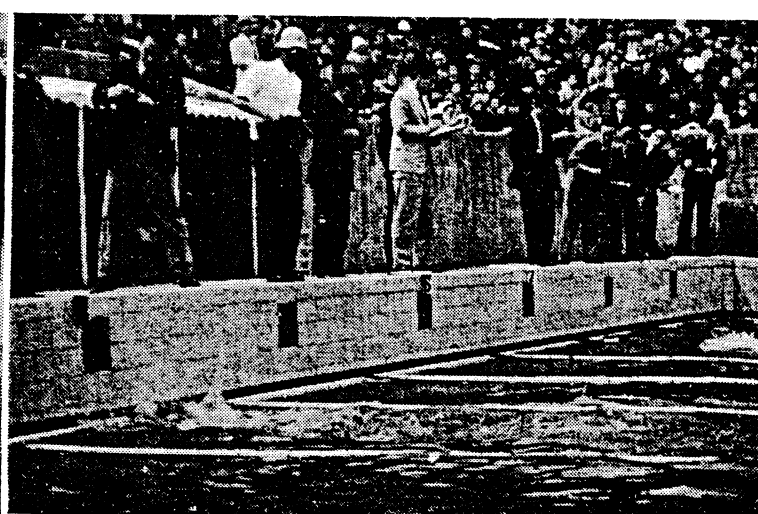
☆八百米繼泳では豫想の如く日大の優勝であつて之で全種目を通じて各一位は日大軍といふ優勢を示し總得點五十八點を以て再び此所に晴れの制連覇を成し遂げた。一方二位の立教陣は短距離の覇者新井の缺場が其痛手となり振はず總得點四十點を數へ第二位となつた、之に續き明大の十五點、初登場の關大は

(日大、佐々木選手)





(早慶 200 米途中の 100 米)



(早慶 100 米背泳ゴール)

六點を得て最下位に甘んじた。次に各種目に就いての成績を見れば次の如く、

◎ 200 米平泳決勝

- 1 葉室 鐵夫(日大) 2 分 41 秒 4(大會新記録)
- 2 大浦誠一郎(立大) 2 分 45 秒 2
- 3 野田 務(明大) 2 分 49 秒
- 4 山口 正保(明大)
- 5 林 田(日大)
- 6 矢 野(關大)

◎ 400 米自由形決勝

- 1 栗原 徹(日大) 4 分 57 秒
- 2 本間 俊夫(立大) 4 分 59 秒 6
- 3 馬場 止(日大)
- 4 鶴藤 俊平(立大)
- 5 河野 隼(明大)
- 6 安達 稔(明大)

◎ 100 米自由形決勝

- 1 佐々木(日大) 60 秒 8
- 2 大崎 定兼(立大) 62 秒 2
- 3 本田 武次(立大) 62 秒 4
- 4 平野 亮(日大)
- 5 吉田 實(關大)
- 6 豊島 吉藏(明大)

◎ 100 米背泳決勝

- 1 谷口 利弘(日大) 1 分 9 秒 8(大會新記録)
- 2 河野 通廣(日大) 1 分 11 秒
- 3 平賀 孟(立大) 1 分 12 秒
- 4 坂本 响一(立大)
- 5 高 田(關大)
- 6 長谷 繁(關大)

◎ 1500 米自由形決勝

- 1 天野 富勝(日大) 19 分 42 秒 8(大會新記録)
- 2 本間 俊夫(立大) 20 分 14 秒 6
- 3 越戸 優一(日大) 20 分 31 秒
- 4 岩切 主(立大)
- 5 河野 隼(明大)
- 6 安達 稔(明大)

◎ 800 米繼泳決勝

- 1 日大チーム(鷺谷、天野、栗原、馬場) 9分 18秒 2
- 2 立大チーム(鶴藤、岩切、本間、岩田) 9分 24秒 8
- 3 明大チーム 10分 2秒 4

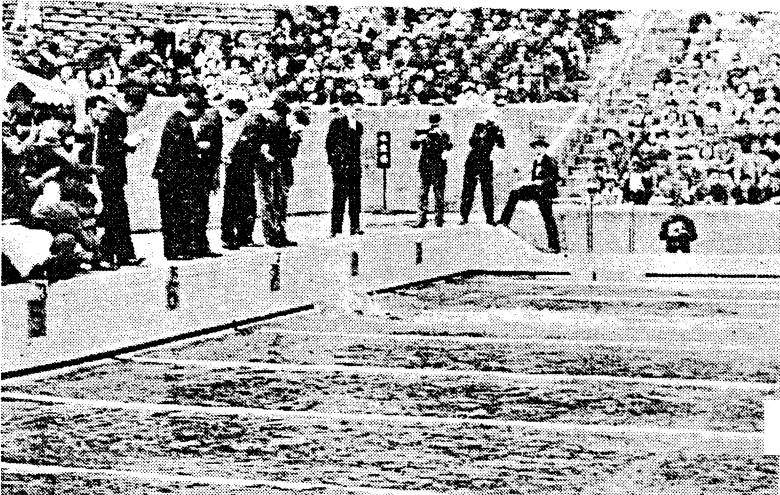
◎ 各校總得點

- 1 日大(58點) 2 立大(40點) 3 明大(15點)
- 4 關大(6點)

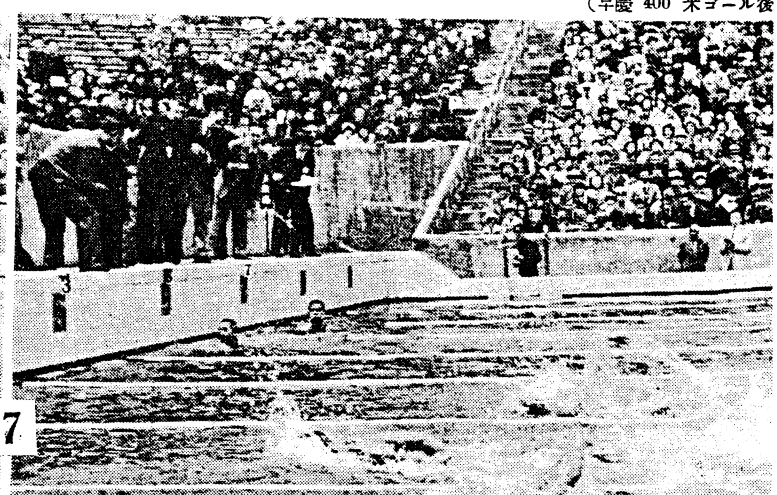
◎ 水球結果

日大 8 { 前半 3-0 } 0 關大
 { 後半 5-0 }

(早慶 400 米ゴール)

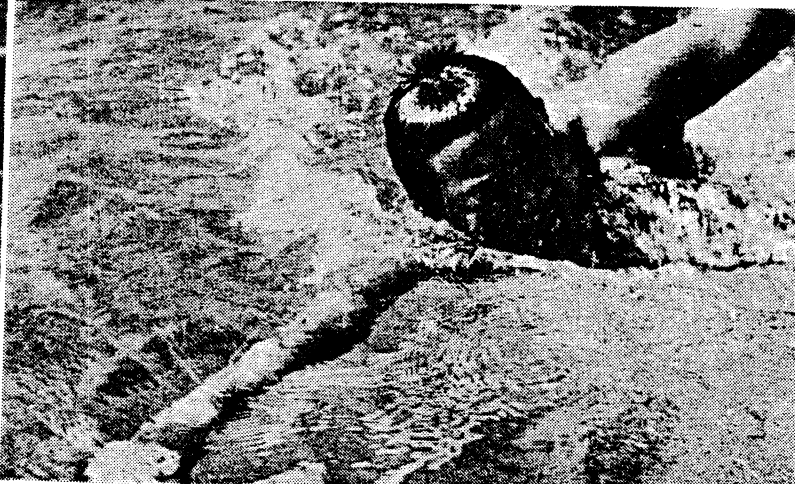


(早慶 400 米ゴール後)





(早大、高橋選手)



(早大、杉浦選手)

最近の水泳界

[目次に戻る](#)

松浦 武雄

四年目毎に開かれる国際オリンピック大会は各國々のスポーツの榮を握つた晴れの競技大会丈に其回を重ねる毎に記録的見地から、亦は技術的に見ても向上と發展とが見られて來た。其オリンピック大会の後に毎回見られる例では有るが其翌年に於いて、いづれの國にも優秀な記録を見る事がむづかしい、(或特異の例をのぞいては)、それと云ふのも大體氣分の乗り切らないシーズンの練習と云ふ事はさ程に向上發展を意味しない事であるとも言へるし、特に亦日本人の體力を持つて始終世界のリーダーシップを握つて行くと言ふ事はむづかしい事にもなるので有る。

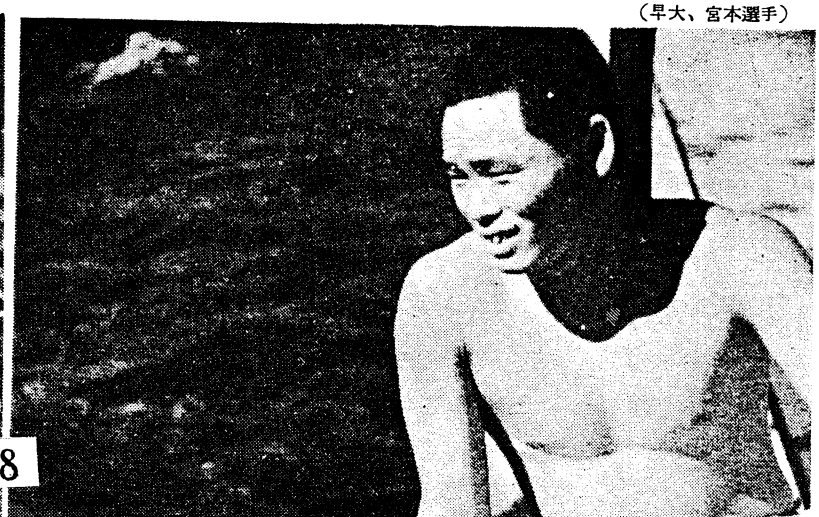
然らば何故日本の水泳が強いかと言へば優勝を目的に懸命に協力し努力して居ると言ふ點にあるので有つて、前々回のロスアンゼルス大会や前回のベルリン大会での榮有る優勝も之等の點に充實を見たと云ふ事に他ならないのである。

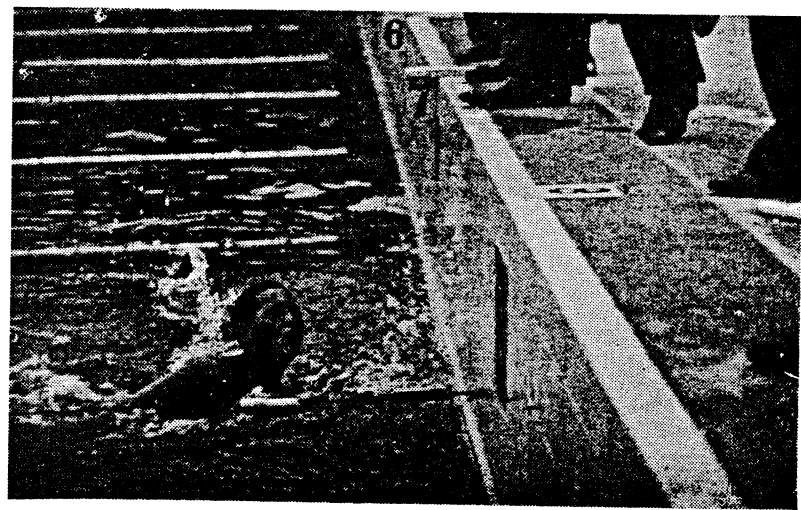
亦一方明年ヘルシキ大会を控へての今日の水泳はどうであるか、誰れもが聞き度い、そして見たい所であらうし、各國々、ことに競泳に強い國々の状況を見之に比べて我競泳界の現状を比較して見る時、

先づ何と云つても對象はアメリカであり、オリンピック翌年には、中、長距離界の世界の雄メデイカ

の引退説等が傳へられ、之はうそか本當か分らなかつたが事實ベルリン大会後一年はあまり姿を何所にも見せない様で有つた。自由形陣でフラナガンが四百米に四分四十六秒、千五百米に十九分十八秒の記録を見せて居る他背泳でキーフアーが相變らず米に一分十六秒八と言ふ獨壇場を示してゐる他フィックも五十九秒を割れず他見るべきものはない様だつたが昨年に至りやゝ活氣を呈して來り好成績をばつぽつ見せて居る。然し之等は殆んど二十五碼プールで作られた記録で百米自由形五十六秒四、フィック、二百米自由形二分七秒・二メデイカ四百米自由形四分三十八秒・七、一時引退を傳へられて居た。メデイカが此の様な記録を以て亦々現はれて居る事、結局メデイカの強さが固定的である丈に日本は彼を一層こはい者と見る事が本當の見方だらうと思ふ。猶平泳陣でケーズレーが二百を二分三十七秒・二之も記録としては善いがニューハーベンの二十五碼プールで有りバタフライを利用してのものと思ふから大したものでないであらうし、必しも我國の競泳記録の標準の上に行くものでは無かららう事を信ずる、只キーフアーの背泳百米一分四秒・八 二百米二分二十四秒は強いものと見なければなるまい。之と一秒位の差でバンデューが非常な強さも示して居る。

(早大、宮本選手)





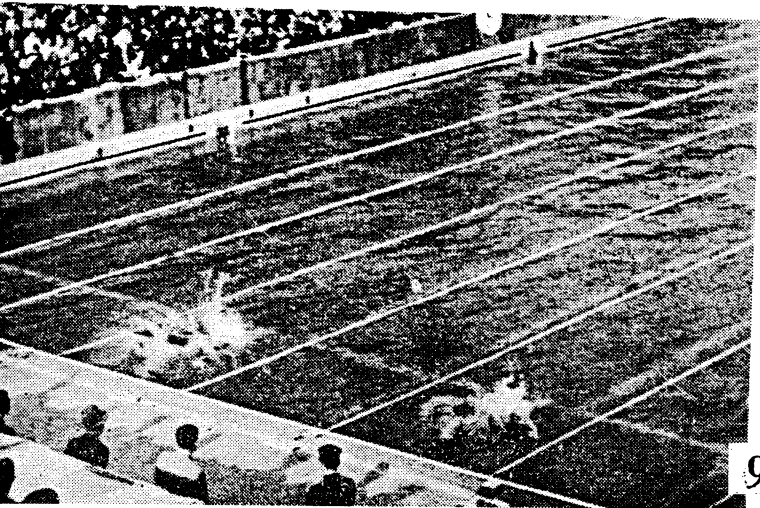
(早慶戦 1500米ゴール田中選手)



(早大、田中選手)

此他注目すべき事はプリントン大學生で、チャード・ハウが百米平泳で一分七秒・三で泳いで居る事であり之はバルケの一分九秒世界記録を破るもので有り例へ短水路のバタフライ使用のものが有るとしても強いと見なければならず、それに今夏デトロイトに於ける全米選手権には勿論、日本招聘を断つて大陸行のメンバーの中にハウの顔が入つて居る事はアメリカとしても今後の彼に期待する所大なるものが有ると見られやう、之等の顔觸に混つてフィック、キーファー、フラナガン、仲間、廣瀬(邦人二世)等が有りいづれも來年を期してアメリカの第一線を行く選手とならう。亦一方歐洲方面はどうで有るか、歐洲と言へば先づ我々の頭にピンと一番早く來る事は平泳陣が強いと思はれる事有る、傳統とでも言はうか、ラデマヘル、カルトンネ出で亦此所にジータス、バルケ、ハイナ、いづれを見ても弱くはない顔振れで特にバルケの二百米二分三十七秒・八は素晴らしい進出振りであり、亦二百よりも四百、五百と長くなる程強いハイナ最近四百、五百と世界記録樹立を見せて居る彼では有るが二百米をジータスと共に二分四十二秒所を見せて居る、然しハイナも五十米長水路では二分四十六秒で我大浦選手の好敵手だらう。亦短距離の自由形ではフィシャーの五十八秒臺での健在さと背泳陣に有つてシラツハが百米一分六秒・八を見せて居るが長水路に於ては九秒を割り得るか否問題とも思ふ。短距離王チツク(洪)ベルリンですつかり、男を上げてから後も五十八秒代を見せて居たが家業が醫師で有り、クラブのコー

(早慶戦八百リレストार्ट)



チと治まつて選手としては水泳界引退を聲明して居る。之等歐、米の水泳界をざつと見て、之に比べて我國はどうで有らふか、一昨年の十二年度はベルリン大會で優勝の隨性とでも云はうか葉室が二百平泳に二分四十一秒・四、自由形では新井が百米に五十七秒・八、二百米に二分十六秒・二いずれも長水路で然もベルリン後クイック、スタートに改正された後の記録としては此の種目の記録として世界に冠たるものと云はねばなるまい。猶此他背泳陣で兒島、吉田の健在に併せて谷口(日大)の擡頭は再びロスアンゼルス背泳陣の名トリオを再現され度き望みを持たしめ、中、長距離牧野に次いで高橋が千五百に十九分三十七秒・八を見せ之は世界記録への挑戦と迄行かなくとも先づ心強き長距離陣を基礎付けてくれた様にも思はれ、之に併せて大學を出で行く選手よりもむしろ中等級或は實業方面からと期待を持ち先づ中等校では宮本、鷺谷、杉田芳郎、岩田務等を將來期待し猶天野(當時は八幡製鐵)の擡頭で有つたが一昨年はさ程泳ぎとしては堅實性がなく之も將來への期待を持つ程度で十三年度を迎へた事變の關係でオリンピック行中止説が出で張切つて居た選手諸君にも少なからずのショツクを與へたが、然し競泳(男子最強チームの)丈はどうしても行かう、こうした氣持が我々の氣持でも有り亦選手の氣持でも有つたらう。昨年度に入りシーズン初めから何となく活氣を見せ日大に天野の入學を見亦競技毎に張切つて、日本選手権關東豫選會には樂々十八分五十八秒・八の世界記録樹立を見た事、亦新井が負け

(早慶八百リレーゴール)



じと二百米自由形に二分九秒六と云ふ之も長水路では斷然世界の第一線を行く記録を収め得た。之等と共に地味と堅實さを示す高橋、寺田のスタッフは我長距離陣を堅め行くもので之に引換へ短距離は新井とはかくとして佐々木、杉浦が有りとは云へ、長距離陣のスタッフに比べて如何にも手薄と言ふ感を持たねばならず共に之等の人々に今後の努力も必要とし、宮本が何所迄のびてくれるかである。むしろ今は社會人となつた遊佐のカムバックが許されるならば望ましい所、亦平泳陣で葉室は問題でなく好敵手であり、対象で有つた小池の學窓よりの送り出し、其後に來る大浦、野田で有る、兩者四十六・七秒はコンスタントでないにせよもう一步と云ふ希望の内に本年度に入つた、早、慶、日、立、明、の五大學競技がヘルシユキ大會を明年にひかへ大きな役割を持つ事は勿論、我國水泳の最高峰を行く丈に興味と期待の大きかつた事は勿論、然し之に病得た寺田の不出場と新井が練習で五十七秒は何時でも出して居乍ら、大會での泳ぎを見せ得なかつた事は大きな淋しさで有つた。然し、之に引換へ高橋の健在さ、シーズン壁頭四百米に四分四十八秒、或は千五百米に田中が十九分三十一秒、之等もシーズン初めとしては立派な記録の一つである。

此早慶戦に背泳の吉田が百米自由形に出場し堂々杉浦と覇を競つて居り亦記録會でも二百米自由形に二分十六秒位で泳いで居る事である。割合に手薄な短距離陣は吉田の自由形への轉向は至當かも知れない。それにしても、新人宮本の早大入學來期待が大きかつた丈に、此夏頃迄は少くも好調にもどつて欲しいものだ。

亦三大學では依然葉室が強さを見せ、三大學對抗の東京大會に二百を二分四十二秒、大阪大會で更に之を縮める四十一秒・二と言ふ元氣さだ。之を追つて大浦が二分四十六秒代から四十五秒・二への躍進も立派なものと言へやう、亦病後で有るが天野が四百に四分五十五秒六、八百を十分二十九秒・八、更に最近は好調になりつゝありと聞く、背泳では一人者兒島に次ぐ谷口も一分十秒は割るも今一息と云ふ所だ。以上述べて來た顔振れが第一線に出て今夏大會（日本選手權水上競技大會兼十二回ヘルシユキ大會豫選會）も餘す半ヶ月後となり、當大會で本當に勝ち得ると云ふ男子競泳の最強チームの其數も二十一二名を限度とし、猶此他日本學生水上競技大會、明治神宮國民體育大會水上競技大會、冬期並に春期の公式練習會等の成績を考慮された最強チームがヘルシユキ大會に望む事になる。

第二回團體長距離競泳大會

八月卅日、日本全國から赤銅色の人間スクリーを集めた第二回團體長距離競泳大會は、波穩かな伊豆初島熱海間の海上で舉行された。外洋二里半を見事泳ぎ切らうといふ海の勇士百卅名はこの黎明、國策スフの禪一つの逞しい姿で初島小學校庭に集合、宮城遙拜、皇軍勇士への感謝の默禱を嚴肅に捧げて後、大會々長西郷從徳侯の

「太平洋はいついかなる時でも日本が占領しなければならぬ」といふ斷乎たる訓示をうけてから號砲一發一組五人二六組の海の勇者は一齊に西ノ濱からスタートを切つたのが午前九時三分

四人の泳團に一隻づつのリーダー船がつくのだが何分にも洋々たるコース、目指す熱海も十國峠もまだ霧で見えない、出際の調子のよかつた京都水上聯盟チーム等は指揮船が迷子になり外洋に出て大損をする、トップは昨年の優勝者佐世保鎮守府第一組、元氣にニコニコ顔で泳ぐ靜浦小學校チームは先生の文理大よりも遙かに前方にゐるといふ珍現象

皆クロールなのに横鎮第三組はプレストで押切る、沼津商業軍はリーダー船には選手の母親や姉さんらしい人の姿もあえて洋上ホロリとさせる情景もあつた。かうして發動機

船でも一時間餘の水路を二時間二分廿秒四（第一回記録三時間卅二分〇四秒、但し非常な荒天）の優秀な新記録で昨年の勝者佐鎮第一組が今年も再び泳破した。指揮者は益山重夫大尉で松下、有光、河野、川崎の各選手は上海戦線の戦士だ。この日大會の人気をさらつた靜浦小學校の二チームで飛魚のやうな潑刺さで白波をきり十四位十五位と仲よく軍樂隊の感激の太平洋行進曲と市民の歡呼に迎へられゴールインした。成績は左の通りで大體クロール泳法に凱歌があがつた。

- 1 佐世保鎮守府第一組（益山、松下、有光、河野、川崎）
- 2 時間22分20秒4、2 横須賀鎮守府第一組（町田、鶴田、岡部、橋本、佐藤）
- 2 時間30分44秒6、3 横須賀鎮守府第二組（高橋、山田、隆田、川崎、芳賀）
- 2 時間35分15秒8、4 佐世保第二組、5 濱名灣協會A組、6 吳第二組
- 7 吳第一組、8 京都水上聯盟、9 横須賀第三組、10 濱名灣B組、11 新潟師範、12 熱海日泳會、13 濱寺水練學校、14 靜浦小學校A組、15 靜浦小學校B組、16 沼津商、17 京都武徳會一組、18 芝商、19 日泳會、20 伊東青年團、21 文理大瀧班、22 京都武徳會二組、23 東京青年學校、24 文理大遠藤班（沼津中、慶大水泳部は途中棄權）

昭和十四年度クラス



選手詮衡第一回発表

(七月三十一日現在まで)

昭和十四年七月三十一日現在、當聯盟へ報告済みの公式記録より男子選手クラス制を発表する、本年はヘルシンキ大會を明年に控へ各選手共張切つて可成り充實した内容を次の如く見せてゐる。

男子 100 米 自由形

順	氏名	所屬	時間	場所	長サ	月日	氏名
B	新井茂雄	(立大)	:58.6	立大	50	6. 2	記録會
B	佐々木 猛	(日大)	:59.8	神宮	"	7.25	全國高專
C	杉浦重雄	(早大)	1:01.0	甲子園	"	6.25	早關對抗
C	鷺谷光明	(日豫)	1:01.2	神宮	"	7.25	全國高專
C	杉田芳郎	(早專)	1:01.4	"	"	"	"
C	吉田喜一	(早大)	1:01.6	"	"	6. 4	早慶對抗
C	井上秀雄	(慶大)	1:02.0	"	"	"	"
C	本田武次	(立豫)	1:02.0	"	"	.25	全國高專
C	園盛保	(濱一中)	1:02.0	"	"	7.30	東部中等
C	大崎定兼	(立大)	1:02.2	甲子園	"	6.18	四大學
C	壺田重三	(早專)	1:02.2	神宮	"	7.25	全國高專
C	小柳清志	(中京商)	1:02.6	濱一中	"	6.18	濱名中等
C	太田忠勝	(立豫)	1:03.4	神宮	"	7.25	全國高專

男子 200 米 自由形

B	鷺谷光明	(日豫)	2:14.4	神宮	50	7.25	全國高專
B	宮本茂	(早專)	2:15.0	"	"	"	"
C	高橋弘	(慶大)	2:16.4	"	"	6. 4	早慶對抗
C	杉浦重雄	(早大)	2:16.4	"	"	"	"
C	佐々木 猛	(日專)	2:17.6	"	"	7.25	全國高專
C	鶴藤俊平	(立大)	2:17.8	"	"	6.11	三大學
C	島本信美	(慶大)	2:18.0	"	"	6. 4	早慶對抗
C	杉田芳郎	(早專)	2:18.2	"	"	7.25	全國高專
C	馬場止	(日大)	2:21.2	"	"	6.11	三大學
C	岩田務	(立豫)	2:21.4	"	"	7.25	全國高專
C	園盛保	(濱一中)	2:22.2	"	"	7.70	東部中等

男子 400 米 自由形

B	宮本茂	(早專)	4:47.2	神宮	50	7.25	全國高專
B	高橋弘	(慶大)	4:48.0	"	"	6. 4	早慶對抗
B	田中英作	(早大)	4:52.2	甲子園	"	6.25	早關對抗
B	天野富勝	(日專)	4:53.4	神宮	"	7.25	全國高專
C	栗原徹	(日大)	4:57.0	甲子園	"	6.18	四大學
C	本間俊夫	(立大)	4:59.6	"	"	"	"
C	宇田守榮	(早專)	4:59.6	神宮	"	7.25	全國高專
C	片山崇	(慶大)	4:59.8	"	"	6. 4	早慶對抗
C	越戸優一	(日大)	5:00.0	"	"	6.11	三大學
C	馬場止	(日大)	5:00.0	甲子園	"	6.18	四大學
C	岩切主	(立豫)	5:02.2	神宮	"	7.25	全國高專
C	岩田務	(立豫)	5:08.0	"	"	"	"

男子 800 米 自由形

B	天野富勝	(日專)	10:12.6	神宮	50	7.25	全國高專
C	宇田守榮	(早專)	10:20.6	"	"	"	"
C	田中英作	(早大)	10:27.6	甲子園	"	6.25	早關對抗
C	栗原徹	(日大)	10:28.4	神宮	"	6.11	三大學
C	本間俊夫	(立大)	10:31.6	"	"	"	"
C	松山正一	(中泉農)	10:32.4	"	"	7.29	東部中等
C	伊藤憲利	(日專)	10:33.4	"	"	"	全國高專
C	岩切主	(立豫)	10:34.8	"	"	"	"
C	淺野俊雄	(中京商)	10:39.8	濱一中	"	6.18	濱名中等
C	竹内定夫	(東邦商)	10:41.4	"	"	"	"

男子 1500 米 自由形

B	田中英作	(早大)	19:31.8	神宮	"	6. 4	早慶對抗
C	天野富勝	(日大)	19:42.8	甲子園	"	6.18	四大學
C	宇田守榮	(早大)	20:04.4	神宮	"	6. 4	早慶對抗
C	片山崇	(慶大)	20:06.4	"	"	"	"
C	本間俊夫	(立大)	20:14.6	甲子園	"	6.18	四大學

男子 100 米 背泳

B	兒島泰彦	(慶大)	1:08.8	神宮	50	6. 4	早慶對抗
B	吉田喜一	(早專)	1:09.4	"	"	7.25	全國高專
B	谷口利弘	(日大)	1:09.8	甲子園	"	6.18	四大學
C	河野通廣	(日大)	1:11.6	"	"	"	"
C	平賀孟	(立大)	1:11.8	神宮	"	6.11	三大學
C	山本恭之介	(早高)	1:13.8	"	"	7.25	全國高專
C	妙中要造	(慶大)	1:14.0	"	"	6. 4	早慶對抗
C	藤井敬次郎	(濱一中)	1:14.2	"	"	7.30	東部中等
C	中野太都	(早專)	1:14.4	"	"	7.25	全國高專

男子 200 米 平泳

A	葉室鐵夫	(日大)	2:41.4	甲子園	50	6.18	四大學
B	大浦誠一郎	(立大)	2:45.2	"	"	"	"
C	野田務	(明大)	2:48.2	神宮	"	"	三大學
C	古川敏	(早高)	2:50.4	"	"	7.25	全國高專
C	長久俊三	(慶大)	2:51.2	"	"	6. 4	早慶對抗
C	山口正保	(明大)	2:52.2	"	"	6.11	三大學
C	小幡令二	(濱一中)	2:54.6	"	"	7.30	東部中等
C	加藤久男	(袋井商)	2:55.8	沼中	25	7.25	靜浦大會
C	川野隆三	(早專)	2:56.4	神宮	50	7.25	全國高專
C	小川明	(八幡製鐵)	2:56.8	大谷	"	6.11	福岡八幡
C	山田弘	(早大)	2:57.0	神宮	"	6. 4	早慶對抗
C	大林嗣生	(早專)	2:57.6	"	"	7.25	全國高專
C	鈴木重一	(元町商)	2:57.8	"	"	7.30	東部中等

渡河泳法考

日本水上競技聯盟評議員 杉本 傳

日本古來の泳法中には海に適するもの、川に適するもの、湖に適するものなどその地方地方の水の状態に応じて研究され且武道として發達して來たもので、流派が澤山ある。その中でも水戸の那珂川で生れた水府流は流れの早い川を渡る泳法として最も研究された代表的な一つであらう。

だが現在競泳に用ふるクロールは河川を泳ぎ渡るに適しないかと云ふと決してさうではない。水着一つで競争して渡るならクロールを學んだものにはそれが一番早くて良いだらう。大正十年頃であつた。私は茨城中學のプールで育てた連中に川を渡らせて見ようと思つて淀川へ行つた事がある。恰度その日は大雨の後で濁流の大淀をクロールで苦もなく泳ぎ切つてしまつた。渡河泳法なんて仰々しく考へなくともクロールに強い長距離の泳ぎ手なら何んでもないことなんだ。

しかしこれが敵前渡河となると大分勝手が違つて來る。川中島の「鞭聲肅々夜過河」もこの種のものだ。身に武装しての渡河は泳げたものではない。それでもその深さ流れの早さ、水底の模様などが豫め偵察されて居つて、余り深くもなく泥底でも無いと判つたなら水泳に心得ある者ばかりであるときは平氣で徒渉も出来るであらうが、若し水心なき者であつたなら矢張り水に對する恐怖心が働いて足踏するやうになるだらう、泳ぎ得る、泳ぎ得ない、の相違はこんなときに大きく働いて來る。

しかもかうしたことは夏の暑い頃に限つて行はれるものでないことは勿論であつて、スポーツ水泳なら戸外のシーズンは大體夏であるけれど敵前渡河はさうはゆかない。

天正年代長篠城が武田の大軍によつて重圍されたとき、鳥居強右衛門は夜中に自然の城壕をなす寒狭川を泳ぎ切つて巧に敵陣を抜け岡崎に走つて城中の模様を徳川家康に詳さに報じたのは五月であつたけれど、壽永の昔宇治川の先陣争ひをやつた佐佐木高綱と梶原景季それから五百余騎を指揮して河を涉つた畠山重忠などの敵前渡河は

睦月廿日余りのことなれば比良の高根、志賀の山昔ながらの雪も消え、谷々の氷うち解けて水は折

節増りたり(平家物語)

とあるから今なら三月の初旬と思はれる。是等の點から見て現在の日本水泳選手は明治時代の所謂水泳家よりは余程この方面の鍛鍛が出來て居ると思ふ。

オリンピックに勝たねばならないと云ふ目標があるので練習は日本の夏の水ばかりで泳いでゐては駄目であつて春の頃から戸外のプールで猛練習が出来るやうに仕立てられてゐる。十七、八度の水温でも随分長い時間の練習に堪へることの経験を積んでゐる。

昔の水泳の寒稽古なら寒中三十日間やつたものだ。勿論今でもそれを續けてゐるところもある。この頃寒中水泳だといつて一日だけを選んで公開されるやうなのはその名残が見られるだけで、寒中でも人の泳ぎ得るといふ意氣を人に見せるのである。古書にも「寒中に泳ぐためには秋から毎日水に入らねばならない」ことが明記されてゐる。昔の東海道大井川に働く人足、その頃交通頻繁であつた街道を往く人々のために橋の代りを勤めたもので島田、金谷に此等の群が六百人も生活してゐたといふ。彼等は夏でも冬でも裸體で人を擔いで徒渉することが本職であつた。

こんな連中ばかりであつたら冬でも敵前渡河は平氣で行はれるだらう。

泳ぎも戦闘の用になる爲には普通夏だけの海水浴の泳ぎは余り役に立たないことになる。

渡河に就いての注意は本田先生から承つたのであるが、川を泳いで渡るときには必ず目標を三つ程假りに定めて泳ぎ出し、若し第一の目標に達せられないと判つた場合には第二の目標に、しかして第三の目標を下流に下げて行くと云ふことは氣分の上において安心が出来る故驚かないといふのである。

しかして余り流れに逆はないやうに流れつゝ泳ぎ渡るので水の心をよくよく知つて渡ることが肝要である。

足利又太郎の宇治川の敵前渡河のことが源平盛衰記に次ぎのやうに出てゐる「金(曲尺)に渡り過すな、水に従て流渡に渡べしとて、橋より上へ三段計

打あげて、三百余騎ぎつと打入、曳々とをめき叫て渡たり。橋の下へ一段さがらず、三百余騎流さず皆具して向の岸へさと上る。之を見て千騎二千騎、打入打入渡たり。」

次に島村丹治昌邦の水術傳習書の中に次の様な事が出てゐる。

初めて越す川見積の事並水流水様、水色、波色、川幅、向岸の様子見積りの事

一、傳に曰く、流れ遅き所、水色青き所は深し、波色大きくうねり所は深く、波少き所は浅し、砂利川杯は廣き所大石のなき所に淺瀬多し、長刀形にして突き當る所はほれて深し、泥川は狭き所深し、瀬さかひある所の上は砂沈む岩川は湍あり。

向ふの岸に遊ぎつきて上られるか、上られざるかを考ふべし、又水の流れ向へはき付くる所は遊ぎ行くに骨折れるものなり。水中に古竹篠などの類ある所までも心懸くる事肝要なり、又戰場にて瀬ぶみの時心得べき事あり、敵味方の見る前にて瀬ぶみを爲す時は敵味方共に淺瀬を知る故に敵方は防ぐ心得に

もなり、又味方の他陣より先陣せられ間敷しくもあらず、自ら瀬ぶみして外の陣より先陣せられては不本意なり、故に淺く共遊ぐ様に見せ其内に味方へは合圖あるべし。又敵近くにあらば楯板を持ち行くべし、楯は短くともよし尺五六寸より二尺位にて可なり、水のきはより上へ出る所ばかり防ぐなり、水の中へ入る所は銃丸それで當らざるものなり長く共厚き板なれば猶よし、具足着て遊ぐたしにもなるなり。

關西の水泳界の長老藤井正太郎氏の子息に陸士出の元氣な青年士官がある、今事變に際し〇〇方面戦闘において水中偵察、敵前渡河、單身斥候によつて軍の作戦を有利に導いた拔群の働きにより部隊長から感状を受けたと聞く。

渡河の習練は非常時形だ。

そこひなき淵やはさわぐ山川の

淺き瀬にこそあだ波はたて

の古歌を知つてゐて敵前渡河に成功した風流名將もある。

飯田光太郎氏遺稿出版なる

本聯盟元評議員故飯田光太郎氏が其死床に於て執筆した遺稿「水泳一般」は標準泳法解説書として豫而より渴望して居たものであるので今回御遺族の御諒解を得、他に小編數編と併に有名なる氏の水泳記録手帳とを付け「水泳指導基準」(正しい日本の泳)として發刊することゝなつた。

水泳指導の優れたる手引とし且つは其尊い一生を日本水泳の爲に 献げられた氏を記念する意味に於て水泳者たるもの一本を御購入の上座右に具へて然るべきものであると思ふ。

因に本遺稿集の印税は御遺族に贈呈致すことゝなつて居る。

日本水上競技聯盟編 飯田光太郎著

水 泳 指 導 基 準

四 六 判 一 七 〇 頁
定 價 一 圓 二 十 錢
送 料 十 錢

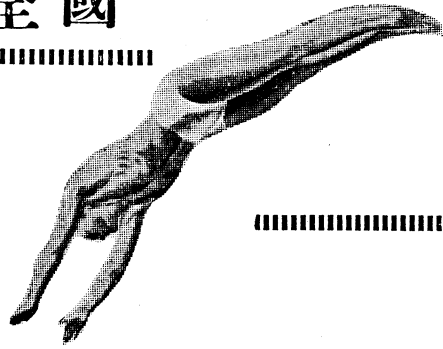
— 正 し い 日 本 の 泳 —

序——末弘嚴太郎 水泳指導基準——飯田光太郎 はしがき——水泳の必要——水泳の全貌——水泳を始める人に——初期の練習——クロール——クロールの練習——標準泳法——扇足——伸泳——片拔手——拔手——扇平泳——蛙足——平泳——浮身——潜り——クロール——背泳——逆飛——立飛——競技の出發——反則出發と出發合圖員の失敗——折返——リレーとメドレー・リレー——競技の設備——競技會で入用な道具水泳着 バタフライに就いて 水泳の反則に就いて 水上競技會開催要項

附 略傳及び追悼文——松澤一鶴 末弘嚴太郎 杉本傳 白山源三郎

猶發行所成美堂(東京市日本橋區通三丁目一)又は本聯盟へ御申込下さい。

第二回全國



高専選手権・水上

競技大會・觀戰記

松浦武雄

七月二十五日午後四時から明治神宮外苑プールに於て、第二回全國高専選手権水上競技大會が行はれた。

當日は、非常にコンディション良好で、プール水温二十四度半気温二十度半と云ふ、めぐまれた水泳日和の中に始終し、我國水泳界の中堅層と將來に期待を持たれた新人達の、初の総合的な出場大會でも有り、本年度に入つて對抗レースだけしかなかつた泳界に投げた期待こそ意義深き事の一つでもあつた。ことにヘルシンキ大會を明年にひかへてあらゆる角度から其期待が大きかつた。此大會が只残念乍ら二十五日一日の然も午後四時半から八時半迄のかなり切つめた時間内に、慌しい氣持で、選手達も充分の時間的余裕を持つ事も出来得ず豫選、決勝、決勝とレースを矢續早に、行はねばならなかつた事は、其所に多少の無理も生じ必然的に自分のペースを固められつゝ有る若い選手達にとつて、ベストコンディションをどこに置くべきかの困難に遭つた事と思ふ。

若し、此大會が二日間に渡り然も時間的に精神的に今少し余裕が有つたならまだまだ好記録を得、亦新人達も充分な期待に添ふ事が或は出来たのではなからうか、と言ふ感を持たせられた。

然し乍ら大會劈頭三百米メドレーリレー決勝に始まり早大専門軍に凱歌が上つてより最後八百米リレー決勝に至る迄可成りスピーディーなレースの連続ではあつたが、此大會を通じて大會新記録の續出を見た事は殊に心強さへ感ぜられる。即ち當日の決勝レースの二番目、二百米平泳に立教大浦が二分四十六秒・六を出し之に續く四百米自由形で早大専門の新人宮本が四分四十七秒・二と云ふ、春の早慶戦に慶應高橋の作つた四分四十八秒をしのぐ、期待に添ふに充分な立派な記録を出した事は我中距離、八百リレーチームの充實を物語る唯一の地力ともなつて行くであらふ。

亦百泳平泳では一着より三着に至る迄即ち一着大

浦立大豫料の一分十六秒・六、二着早高古川の一分十七秒・四、三着早大専門の大林の一分十七秒・四三等迄大會新記録を見、此他二百米自由形で日大豫料の鷺谷が二分十四秒代ではあるが早大宮本の二分十五秒・四を奇麗に水を開けてゴールした事等であり元來背泳畑に在つた彼が手薄な短距離陣目差して驀進してゐる元氣さは正に嘆賞に値しやう。

今少しの所で百米にも五十八秒代を望み得る事は今後の努力によつてむづかしい事ではなからふと信ずる、亦背泳に於ける早大専門の吉田であるが當大會では背泳に始終しメドレーリレーのトップに一分九秒・六百米背泳豫選決勝を通じて一分九秒・六、九秒・四と、コンスタントの強さを見せたが此春の對抗レース、室内記録會等には百、二百米自由形に相當の強さを見せ、レースの得點の關係によつて、表裏と非常に便利に用ひられて居る様だが、どつちかと言へば此便利屋さんか亦危険なので、いづれか進展を計る方が賢明なのではなからうか。

亦期待する天野、佐々木兩君の病後では有るが今少しばらんすの取れた本調子の近くにある事を望む

☆三百米メドレーリレー決勝

早大専門初めよりリード吉田一分九秒・六で二番大林に渡し二等の立教大浦が力泳するも大林のバタフライを抜き得ず。

最後杉浦樂々とゴールイン。

- 一着 (早大専門) 三分二七秒・八
- 二着 (立大豫料) 三分三〇秒・四
- 三着 (日大豫料) 三分三八秒・八
- 四着 早高、五着 日大専門

☆二百米平泳、決勝

立教豫料大浦早高古川と百米過ぎる頃迄善く並び百五十米過ぎる頃よりひらきが出来て結局二分四十六秒・六を以て大浦のゴール決る。

- 一着 大浦誠一郎 (立大豫料) 二分四十六秒・六 (大會新記録)

- 二着 古川 敏 (早 高) 二分五十秒・四

- 三着 川野 隆三 (早大専門) 二分五六秒・四
- 四着 大林 嗣生 (早大専門)
- 五着 三輪 春雄 (早大専門)
- 六着 田口 實 (日大豫科)

☆四百米自由形決勝

宮本初めより飛び出し之に天野、越戸、宇田、馬場の順で懸命に宮本を追ふ、二百米過ぎる頃宮本、天野の順で之に宇田が出で越戸、馬場、三百では、宮本、天野、宇田に續き立教豫科岩切出で之に越戸岩田の順、宮本後半の水に乗り切つた鋭いスベリは流石に四分四十七秒・二の大會新記録、然も本年度に於ける最高の好記録を得、オリンピックに持つて行つても悠々たる記録を作つた。

- 一着 宮本 茂 (早大専門) 四分四十七秒・二
(大會新記録)
- 二着 天門 富雄 (日大専門) 四分五十三秒・四
- 三着 宇田 守榮 (早大専門) 四分五十九秒・六
- 四着 岩切 主 (立大豫科) 五分二秒・二
- 五着 越戸 優一 (日大豫科)
- 六着 馬場 止 (日大専門)

☆五十米背泳決勝

- 一着 吉田 喜一 (早大専門) 三十一秒・八
- 二着 河野 道廣 (日大豫科) 三十三秒・〇
- 三着 中野 太郎 (早大専門) 三十三秒・八
- 四着 奥田精一郎 (早 高)
- 五着 平賀 孟 (立大豫科)
- 六着 内 館 洋 (早 専)

☆百米自由形決勝

- 一着 佐々木 猛 (日大専門) 五十九秒・八
- 二着 鷺谷 光明 (日大豫科) 一分一秒・八
- 三着 太田 忠勝 (立大豫科) 一分二秒・〇
- 四着 壺田 重三 (早大専門)
- 五着 杉田 芳郎 (早大専門)
- 六着 本田 武次 (立大豫科)

☆百米平泳決勝

早大専門大井、深野、共にバタフライをもつて大浦に迫るも結局、大浦、古川のオーソドックス泳法のスベリに敵し得ず大井三着となり、此種目三着迄大會新記録となる。

- 一着 大浦誠一郎 (立大豫科) 一分十六秒・六
- 二着 古川 敏 (早 高) 一分十七秒・四
- 三着 大林 嗣生 (早大専門) 一分十九秒・二
(大會新記録)
- 四着 寺田 武實 (早大専門)
- 五着 深野 富雄 (早大専門)
- 六着 田口 實 (日大豫科)

☆八百米自由形決勝

天野初めより飛び出したに對し宇田よく之を追つて其差二米を雜れず五百米邊追つたが流石其つかれを見せ、之に十米遅れて伊藤、岩切、馬場、之に續く越戸や、おくれを見せて居たが、六百米頃より、宇田や、おくれ之に伊藤續き十米遅れて岩切、馬場の順七百米頃より馬場出て来る。

結局天野に續き十二米遅れて宇田之に十二米遅れて伊藤ゴール、岩切、馬場競合ひ同タツチに見えるゴールインをした。

- 一着 天野 富勝 (日大専門) 十分十二秒・六
- 二着 宇田 宇榮 (早大専門) 十分二十秒・六
- 三着 伊藤 憲利 (日大専門) 十分三十三秒・四
- 四着 岩切 主 (立大豫科) 十分三十四秒・八
- 五着 馬場 止 (立大豫科)
- 六着 越戸 優一 (日大豫科)

☆二百米自由形決勝

佐々木、宮本、鷺谷、杉田と、初より飛び出し百米では殆んど差なく百五十邊より鷺谷出で宮本、善く之を追ふも鷺谷よく逃げ込むでゴールイン。

- 一着 鷺谷 光明 (日大豫科) 二分十四秒・四
- 二着 宮本 茂 (日大専門) 二分十五秒・四
- 三着 佐々木 猛 (日大専門) 二分十七秒・六
- 四着 杉田 芳郎 (早大専門) 二分十八秒・二
- 五着 岩田 務 (立大豫科)
- 六着 壺田 重三 (早大専門)

☆百米背泳決勝

- 一着 吉田 喜一 (早大専門) 一分九秒・四
- 二着 平賀 孟 (立大豫科) 一分十二秒・四
- 三着 山本恭之介 (早大専門) 一分十三秒・八
- 四着 中野 太郎 (早大専門)
- 五着 河野 道廣 (日大豫科)
- 六着 奥田精一郎 (早 高)

☆八百米リレー決勝

- 一着 早大専門チーム(宮本、宇田、壺田、杉田) 九分二十一秒・二
- 二着 (日大専門チーム) 九分二十八秒・二
- 三着 (立大豫科チーム) 九分三十三秒・八
- 四着 (日大豫科チーム) 五着 早高チーム

☆總得點及順位

- 一、(早大専門) 八十四點 (優勝)
- 二、(立大豫科) 四十三點
- 三、(日大専門) 三十七點
- 四、(日大豫科) 三十一點
- 五、(早 高) 二十三點

(以上)



クロールは何故速いか

電機學校教授 田 中 登

同一人がクロールと平泳又は伸泳で泳いだ場合、
 兩泳法同一の技倆でもクロールの方が速い事は明か
 な事實である。之は何故であらうか。

此の問題に關し、小學生に對してなら「平泳や伸
 泳は一回一回一寸休むのに反し、クロールは休み
 なく手足を働かしてゐるから速いのである」と云へ
 ば先づ納得するであらう。

然し中學生なら「クロールは絶へず手足を働かし
 てゐるから疲れて却つて遅くなるのではないか」と
 反問するであらう。即ち中學生に對しては次の如く
 訂正すべきである。

平泳や伸泳には死點 (dead point) があるが、ク
 ロールにはそれがなく隋性が利用出来るから能率が
 良いのである。例へば平泳は蒸汽エンジンの如く、
 クロールは蒸汽タービンの如きものである。エンジ
 ンはピストンがシリンダーの中で往復運動をするの
 であるが、シリンダーの一端と他端とに於てピスト
 ンは其の運動の方向を變へるために一時停止する。
 即ち一往復について二つの死點を持つ。處がタービ
 ンは軸の周圍に植付けられた羽根に蒸汽が衝突して
 軸が常に同一方向に回轉するものにて死點といふも
 のが絶對になく、隋性が極度に利用され能率が非常
 に良いものである。夫故偉人ジェームス・ワットの
 發明したエンジンも今は廢れ、タービンが全盛を極
 めてゐる。之と同じく、平泳、伸泳の如く運動に死
 點のあるものは不利で、クロールの如く死點なき連
 續動作の方が有利である。

この答辯でも、大學生は満足しないであらう。地
 上の譬で水中に於ける運動を説明する事は出來な
 い。水と云ふ流體中を人體と云ふ固體が運動するの
 であるから流體力學を擔ぎ出さねばならない。

先づ平泳の場合を考へて見やう。

平泳では蛙股で一回水を蹴つて最大速度を出し、

水の抵抗力のために速度は漸減し、殆んど零となつ
 た時再び足で水を蹴り速度を出す事を繰返す。

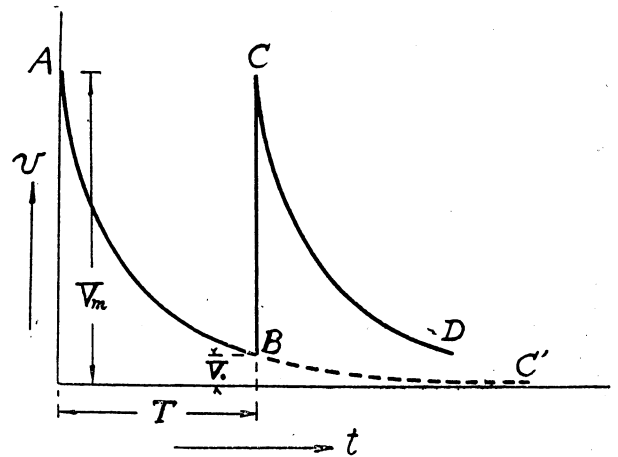
水を蹴つた瞬間を時間の起點とし、それよりも t
 秒經過したときの速度を v とし、泳者の體重を m
 とすれば水の抵抗力は速度の自乗に比例するから此
 式が成立する。

$$m \frac{dv}{dt} = -cv^2 \quad [C \text{ は一つの定數}]$$

これより
$$\frac{dv}{v^2} = -\frac{c}{m} dt$$

積分しては
$$-\frac{1}{v} = -\frac{c}{m} t + k \quad [k \text{ は積分定數}]$$

$t=0$ のとき $v=V_m$ とすれば



$$-\frac{1}{V_m} = k$$

$$\therefore -\frac{1}{v} = -\frac{c}{m} t - \frac{1}{V_m}$$

$$\frac{1}{v} = \frac{c}{m} t + \frac{1}{V_m} = \frac{CV_m t + m}{mV_m}$$

夫故
$$v = \frac{mV_m}{cV_m t + m}$$

この式は横軸に t を縦軸に v を取つて描けば、

圖中 ABC' の如くなる。然し實際の平泳の場合は、一度水を蹴つて出した速度が完全に零になる迄身體を流す事なく、まず幾らか速度のある時、即ち V_0 のとき、其の蹴りを行ふから同圖 ABCD の如くなる。

一動作の完了する同時間を T とすれば、この時間中に進行した距離 S は其の如くして求められる。

$$S = \int_0^T \frac{mV_m}{cVt+m} dt$$

$$= \left[\frac{mV_m}{cV_m} \log(CV_m t + m) \right]_0^T$$

$$= \frac{m}{c} \log_e \frac{CV_m T + m}{m}$$

$$\text{又 } V_0 = 1v1_{t=T} = \frac{mV_m}{cV_m T + m}$$

今假りに $m=60 \text{ kg}$, $V_m=5 \text{ m/sec}$, $T=2.0 \text{ 秒}$

$C=100$ として見れば〔註：一抵抗係數 C は流體中を運動する固體の形狀に依つて異なるもので、極く單純なら計算出来ない事もないであらうが、人體の如く複雑なる形の場合どうしても實驗から求めるの外仕方がない。斯界の權威 Lamb でさへ流體抵抗は實驗的に求むべきだと云つてゐる。筆者は後日機會を得て電機學校の水力實驗品を利用してこの値を求めて見たいと思つてゐる〕

$$S = \frac{60}{100} \log_e \frac{100 \times 5 \times 2.0 + 60}{60}$$

$$= 0.6 \times 2.3 \log_{10} 17.666$$

$$= 1.724$$

従つて平均速度 V_a は

$$V_a = \frac{S}{T} = \frac{1.724}{2.0} = 0.862$$

又最小速度 V_0 は

$$V_0 = \frac{mV_m}{CV_m T + m} = \frac{60 \times 5}{100 \times 5 \times 2 + 60} = 0.283$$

次にクロールであるが、之も嚴密に調べれば速度に斑があるのであらうが、實用上は先づ一定速度と見て差支へないであらう。その速度を V_c とする。

平泳の一動作即ち S なる距離を進行する間に泳者が出すエネルギー W は

$$\text{平泳に於て } W = \frac{1}{2} mV_m^2 - \frac{1}{2} mV_0^2$$

$$\text{クロールに於て } W = fs = CV_c^2 S$$

である。兩泳法に於て同じエネルギーを出したとすれば、

$$\frac{1}{2} mV_m^2 - \frac{1}{2} mV_0^2 = CV_c^2 S$$

前の數字を使用して見れば

$$\frac{1}{2} \times 60(5^2 - 0.283^2) = 100V_c^2 \times 1.724$$

之より $V_c = 2.085$

斯くの如く同一エネルギーを出し乍ら、平泳速度が段階的でクロールの速度が一様であるために、平泳の 0.862 m/sec の速度に對し、クロールは、 2.085 m/sec と云ふ大きな速度が得られる。

今 100 米を兩泳法で泳ぐとすれば

$$\text{平泳 } \frac{100}{0.862} = 116 = 1 \text{ 分 } 56 \text{ 秒}$$

$$\text{クロール } \frac{100}{2.086} = 48 \text{ 秒}$$

これら兩タイムは選手級の實際タイムとは甚だ違ふ、即ち平泳では實際より遅過ぎ、クロールでは速過ぎる。之は理論や假定にまだ不備な點があるためであるが、兎に角同一エネルギーを出し乍ら平泳よりクロールの方が速くなる事は理論付けられたわけである。

後日再び理論をもつと實際的なものに改良して見たいと思つてゐる。(終)

クロールの必然性 (其二)

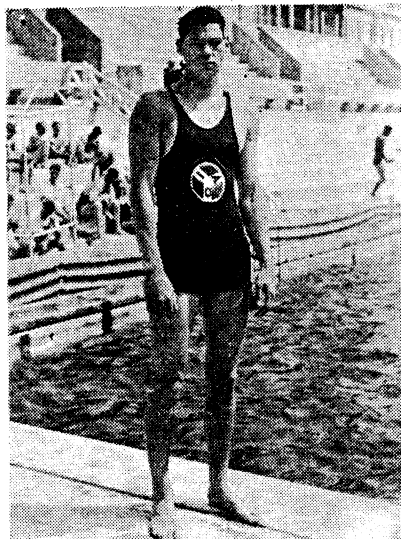
クロール、ストロークは現今自由形と稱し最も多く競泳に用いられて居る泳法で之を分解的に説明すれば、其體形は胸部を先ず下向けに水面と平行に俯し同時に兩足は眞すぐ後方に伸ばした體形を保ち伸ばした足は左右交互にひざより足首にかけて水を打つ(之をビートと稱し)同時に左右の手は交互に頭の方肩巾の位置で前方から腰の邊まで水中を下方に前向けに半圓形を畫いて水を搔く、搔き終つた手は水上に抜き再び交互に此動作の連続に行はれ行く泳法である。一方手が顔の前方で水に入る時から水を搔き終る迄、即ち元の位置に戻る迄の間に兩足のビ-

トが二回宛、四回宛、或は六回宛、八回宛と言ふ如くに各々方法が有り通常ツープート、フォアビート、シックスビート等といはれ最も通常行はれて居るクロールストロークは六回宛のシックスビートである。かくの如くクロールストロークの最大にして好果的の目的はと言へば非常に早い速度で泳ぎ得る事であつてそれは水より軽い人間が殆んど水に浮くと云ふ努力なくして水への浮力によつ此の動作が容易に出來得ると云ふ點にあるからである。手(腕)が前方の水に入つて或水深迄に達しないと進行の働きの効果的でなく、身體の或るスピードの進行に加へて最も有効な水の搔き方はと言へば腰を中心として體と直角に水深に對し力強くキャッチした水を有効に搔き切る點にある。(T.M)

ワイスミュ

ラーの泳ぎ

W. Bachrach



ワイスミュラーの泳ぎは所謂アメリカン・シックス・ビード・ダブルトラヂオン・クロールで有る。これは古いオーストリアン・クロールに大改造を加へた泳ぎであつて、ワイスミュラーが實例を示す様に、一つの大切な特長は身體を水から可成り出して泳ぐ事である、彼は頭と肩を高く保ち、背中を出し足を水中深く入れてゐる。足が深いので其足で恐らく大きな推進力を造り出す。彼は水上飛行機の原理に従つて、水の抵抗を少なくしてゐる。ワイスミュラーの手の動作は根本的には他の米國の一流選手達のと差異はない。見た所、手の掻き方は全く同じである。

他の選手よりも良い所は彼が腕を水に入れる時前方に伸し過ぎない事である。

私の考へでは腕は前に伸した時に肱の所で僅かに曲げてそのまゝの状態を保つて水を掻くべきことだ。ワイスミュラーは腕を前に伸ばし過ぎないから身體がローリングをしないし、又腕が途中で休んだりする事なしに完全に水を掻いてゐる。若し腕を前に無理に出し過ぎたとしたら、身體のローリングや腕が途中で休んだりする事が起らう。ワイスミュラーの脚の蹴りは他の選手達とさう違はない。只頭を高くしてゐるので従つて脚が水面下深くにあるだけの差だ。恐らく彼の足首や膝は完全に力を抜いてゐるだらう、彼の蹴りは實にしなやかである。ワイスミュラーの泳ぎの動作で目立つてゐる特長は、彼の筋肉の働きの殆んど完全な協同作業と曾て見た事のない長いしなやかな筋肉の持主であることである。ワイスミュラーの呼吸の仕方は他の多くの選手達とは相當異つてゐる。ワイスミュラーが出て来る迄の短距離選手は三ストロークか四ストローク毎に一回宛呼吸してゐた。五十碼のレースにでもなると初めの半分は一氣で泳いで、後の半分を二度か三度呼吸するのが普通であつた。其間酸素を吸ひ込む代りに水の中で呼吸をつめてゐるのである。これつばかり

の呼吸で充分な空氣を取り入れる事は出来ないのだから其結果貯へてゐる精力をなくし徒らに筋肉を疲勞させ、少ししか泳がない中に全く疲れ切つてしまふ。ワイスミュラーが私の所へやつて來た時に、一ストローク、一呼吸のこれまでの考へもこの男にやらして見やうと私は決心した、其

時分は彼も非常に若くして、こつちの思ふ様な形になるし、何にも固つた所がなかつたので、仕事は樂であつた。

初めの間は一掻き毎に呼吸する事は仲々骨が折れた。然し數ヶ月練習したら、うまく調子がついて呼吸が出来るばかりでなく手足の動作は其爲に少しも亂されるやうな事がなくなつた。換言すればワイスミュラーの手と足は彼が呼吸して居るのを知らないんだ。彼の呼吸は手や足の機械的な運動から獨立して行はれてゐる。彼は五十碼泳ぐ時でも三百碼泳ぐ時でも同じ様に各ストローク毎に吸呼する。それでどんなレースの時でも終りに近い時にはスプリントで泳ぐ事が出来る。

一九二二年に新聞にワイスミュラーは左右兩側に呼吸をすると書かれた事がある。これはおかしな事から起つたので、それは布哇に遠征する途中で乗船前にサンフランシスコに止つて泳いだ。一通の練習の後でワイスミュラーはふざけ初めた、そうして左右兩側に顔を向けて呼吸し出した。一ストロークに二呼吸で、丁度此ふざけてゐる所へ新聞記者達が來て、その泳ぎを見て驚いた、記者先生達ワイスミュラーの速い秘訣はこれと許り早合點して我々が船でサンフランシスコを去つた後に此大發見を新聞に出したものだ。唯一言聞いてくれれば、ふざけてゐるんだと云つたものを、まさかこんな呼吸の仕方でワイスミュラーもレースはしやしない。

然し之は新聞で廣められて此世界的選手に就いての一つの秘訣となつたことが有つた。



小山賢之助

☆仲間選手濠洲水泳界の寵 兒となる

布哇生れの日系米人仲間清君は過日濠洲に遠征し濠洲水泳界に未だ嘗て見ざるセンセーションを捲き起し「ヒューマン・フィッシュ」と綽名せられ各地でもてはやされた。濠洲に遠征した水泳の名選手は今迄に数多く存するが彼の如く人気を博したのは濠洲水泳界に取つて全く始めてであつた。彼の少年らしき明朗さ、スポーツマンらしい立派な態度は役員始め、一般観衆に非常なる好感を與へたのみならず彼は出場する度毎に必ず濠洲記録を樹立したのであるから絶讃を浴びたのは蓋し當然であらう。

濠洲選手権大會に於て彼は百米から千五百米に至る自由形の全種目と三百米個人メドレーの六選手権を見事獲得して前人未踏の新記録を作つた。當時の記録左の如し。

100碼	62.0
220碼	2:16.6
440碼	4:56.4
880碼	10:27.0
1650碼	20:26.0
330碼メドレー	4:20.0 (濠洲對記録)

尙彼は選手権大會終了後濠洲各地を巡歴して左の濠洲新記録を作つた。

880碼	10:12.4 ()
400碼	4:37.6 (アデレード)
440碼	4:52.0 (ブリスベイン)
400碼	4:51.9 (ニウ・サウスウエイルス)

☆水球—洪牙利對西獨乙の死闘

去る六月三、四兩日、自耳義リエージュに於て、屋外プール開きの水泳大會が舉行せられ、洪牙利、佛蘭西、獨乙及白耳義の四ヶ國對抗競技が行はれた。競泳では室内大會で好記録を出した、エレメリ(洪) フィッシュア(獨) 等案外に不調で見べきレースは無かつたが、水泳に於ては彼の有名な洪牙利のナショナル、無敵チーム「加農砲の七人」に對し、シナイダーを主將とする西部獨乙チームが敢然之に挑戦して白熱戦を演じ前半一對一、後半又一對一、遂に延長戦に入るの奮戦をなしたが延長戦に入るや千軍萬馬の古武士ともいふべき洪牙利はピンチに際しても、チャンスに當つても冷靜なる事林の如く十分の實力を發揮するに對し西部獨乙はチャンスに際しては勝を急ぎ、ピンチには周章狼狽爲す術を知らずネ

ームツの猛攻功を奏して洪牙利忽ち三點を獲て合計五對二、善戦せる西部獨乙は矢折れ刀盡きて無敵洪牙利の軍門に降つたのであつた。

然し、無敵洪牙利チームに對して前後半二對二の接戦をなしたのは一九二八年アムステルダム大會以來、獨乙チーム以外の爲し能はなかつた所であつて、獨乙ナショナルチームが一九三一年巴里の歐洲選手権及び一九三六年伯林オリムピックに於て二對二の接戦迄漕ぎつけた記録があるのみで、洪牙利の「加農砲」の無敵振りもさることながら、西獨乙チームの凄味も亦我々の銘記すべき事柄でなくてはならない。

當日の兩軍陣容左の如し。

洪牙利 (白帽)		獨逸 (青帽)	
ブランデイ	LF	ブラウン	
ネームツ	CF	シュナイダー	
ボツシ	RF	テーレン	
ハラツシイ	HB	シュトラウス	
ハツアイ	LB	シュテルンベルガー	
シアールカニ	RB	ヘンチュエ	
マーツアーイ	GK	クリーシア	
レフェリー ダラエイ (白耳義)			

即ち洪牙利は一九三六年伯林オリムピック優勝當時のスタッフの中僅かに GK ブローディを缺くのみ。

呼笛一聲！戦の火蓋は切つて落された。獨の RF テーレン奮然力泳して第一球を獲得し、ブラウンそのパスを受けて洪ゴール目掛けて最初の一投、發止とばかり GK マーツアーイ之を受止め獨の好機空し、此時ボツシ向きをかへて攻勢に出でんとするや、獨のヘンチュエやつてはならじと捕へて放さず、レフェリーはヘンチュエに退水を命じた。果然形勢は獨逸に不利である。好機御座なれと、ブラウン、ボツシ、ネームツ獨目指して殺到し、ゴール目掛けて得意の巨砲を放つた。されど獨の GK クリーシア好守好防往年のラーデマツヘルもかくやとばかり秘術を盡して防戦し得點せしめず奮戦數合に及んで、遂に洪に好機は來た、洪牙利獨乙を巧みにマークしてボツシ、獨リゴール前にフロートし球を獲るや直ちに鮮かなるシュート、クリーシアの頭上を山形に落ち込で美事ゴールイン！一對〇の洪のリードとなつた。然るに練習不足のハラツシイ漸く疲勞して泳ぎのスピードを減じ來るや洪牙利は優勢を保持すべく消極戦法を取りシャルカニはシュナイダーを執拗にマークして離れず二米周圍に球影を見ざるに之を攻む事二度三度、レフェリーは遂にシアールカニに退水

を命じた。此間シユナイダーは自由投を得る事三度、何れもシアルカニの妨害に好機を逸し、味方の頹勢を挽回する折も無かつたが彼が退水を命ぜらるるや俄然洪陣深く突入してヘンチュにパス、ヘンチュ退水の汚名を雪がんと慎重なるシュート、美事に極つて一對一、此後同點に氣をよくしたか獨逸のバック物凄く奮戦するに對しボツシ、ブランデイ不調、ネーメツ亦嘗ての颯爽たるフォームを見せずシアルカニは防禦に相當の巧妙さを見せたが惜しくも二度退水を命ぜらるるなど洪牙利破るかと迄思はしめたが GK マーツアイ獨り奮戦してゴールを死守するうちにタイムアップとなつた。

後半に入るや獨逸チームの一人誤つて無人の境にシュート、ハラツシ待つてましたとばかり、シユテルンベルガーのマークを巧に引離しつつ強引の一投、美事にクリーシアの防禦を退けてゴールイン、二對一、再び洪牙利リード、

かくするうちにハラツシ又もや疲労し、シアルカニ三度目の退水を命ぜらるるや、獨逸時は來れりと一齊に前進を開始しマーツアイを先途と防戦之努め、前任者ブローディに劣らざる力量を發揮した。

然るにテーレン自由投を二度獲得するやシユナイダーは之と巧に連絡してゴール前四米から猛烈にシュートし流石のマーツアイも遂に届して、二對二再び同點となつた。

試合はかくて二對二の白熱戦のまま延長戦に入つた。

延長前半、西部獨逸後半戦の奮闘に力を傾倒したか漸く疲労の色濃く落着を失ひ始めた。テーレンヘンチュ交々ゴールに迫つたがきまらず、洪牙利ボールとなるやハツアイ、ゴール前三米に至つてノーマークのネーメツにパス、ネーメツ之を悠々物にして三對二、三度洪牙利リード、

延長後半、洪牙利のフローティングフオーワードネーメツ獨逸の疲労に乘じ忽ち二投を物にして遂に五對二、西部獨逸チーム惜しくも敗れ去つたのである。

☆四ヶ國對抗競泳の成績

前記水球と同日五十米コースに於て四ヶ國對抗競泳が行はれたが一着の記録左の通り。

100米自由形	ケレシ	(洪)	1:01.6
200米 "	ケレシ	(洪)	2:21.0
100米背泳	シユレーダー	(獨)	1:11.8
200米平泳	ハイナ	(獨)	2:46.4
800米繼泳	洪牙利		8:43.7
300米混繼泳	佛蘭西		3:30.0

☆布哇日系人の活躍

布哇のヌアヌYMCA水泳チームは去る五月二十七日桑港のYMCA水上選手権大會に十種目中六種目に選手権を獲得し五十五點で優勝したがこのチーム六人の中四人迄は日本第二世であつた、トーマス田中、ゼームズ田中、ゼローム重谷及び角田敬一が之であつて中でもゼームズ田中は一人で三種目に優勝し個人優秀賞を受けた、仲間、廣瀬に次いで續々と

日系米人が水泳界に現はれて來るのは誠に注目すべき事柄であつて、オリムピックの競泳に於て、日本と日本人より成る米國とが世界の覇權を爭奪するといふやうな情況が或ひは實現するのではないかと白人の考へるのも無理はない。當日の一着記録左の通

50碼自由形	24.2	G	チング(ヌアヌ)
100碼自由形	56.0	A	ヤング(ヌアヌ)
220碼自由形	2:21.4		ゼームズ田中(ヌアヌ)
440碼 "	5:06.2		"
1500米 "	20:37.2		"
150碼背泳	1:43.0	J	デイリー(ポートルランド)
220碼平泳	2:45.3	R	グラント(インディアナ)
300碼混繼泳	3:21.4		インディアナYMCA
400碼繼泳	3:45.3		ヌアヌYMCA

(チング、兩田中、重谷)

☆女子二百米平泳の世界記録保持者破る

女子二百米平泳の世界記録 2:56.9 を保持する和蘭のワールベルク嬢は前號で紹介した白耳義の新人ケルヒホーヴエ嬢とブラセルの25米プールで接戦の末一碼の差で破れセッションを捲き起した。ケ嬢のタイムは2:59.0で白耳義記録3:02.2を破つて居るがブラッセルのプールは二十五米より數吋小さいとのことで同記録は公認記録とならずファンを失望させた。

最近の報導によれば嬢は百米平泳に一分二十五秒の公式記録を作つた由である。

☆丁抹女子平泳に強し

丁抹のセーレンセン嬢は益々好調で過日コペンハーゲンの25米プールに於て二百米平泳に二分四十三秒三の好記録を出した。世界記録に劣る事一秒九である。

セーレンセン嬢は伯林オリムピック當時年齢僅かに十三歳で二百米平泳に三分七秒八で三着を得たのであつたが、又今年十三歳で全種目に三分八秒七の好記録を出したSラルモン嬢が現はれ、丁抹では女子平泳に世界制覇の可能性ありと大いに張り切つて居る。

☆瑞典の雄ビヨルンボリイ破る

瑞典の自由形最高記録の殆んど全部を有してゐるビヨルンボリイはストックホルムの五十米プールにて行はれた獨瑞對抗競技に於て無名の新人オラフ・オルソンの爲に破れ去つた。オルソンのタイム五十九秒七で同人は五十米にもリレーの途中記録であるが二十五秒七の好記録を獲た。

當日の他の一着記録左の通り

1000米繼泳(50×20)	9:27.7	カプニングシチーム(瑞)
400米自由形	5:04.2	ケーニング(獨)
200米平泳	2:51.0	ロルフ・ケーネ(獨)
100米背泳	1:11.8	ハインツ・シユラウフ(獨)

(Sw immer. B, Handley Swimming Times ヨリ)

第二回國民皆泳全國學童水泳大會

總ての人間は陸を歩くことが出来ると同じやうに水を泳ぐことを知らねばなりません。國民の總ては護身の爲にも又身心鍛鍊の爲にも是非とも水泳を學び又大いに行はねばなりません。而してこの「國民皆泳」の實を擧ぐべき最善の方法は總ての小學生に水泳を習はせることであります。是今回吾々が文部省、國民精神總動員中央聯盟御後援の下に日本放送協會の御援助を得て此の大會を開催せんとする所以でありまして、之に依つて一には「國民體位の向上」に貢獻し二には以つて「國民精神總動員」の趣旨に副はんとするものであります。

此の大會は全國總ての學童諸君に泳いで貰ふことを目標とするものであります。時間及び場所の關係上、實際團體水泳に参加されるのは一校男女それぞれ四十名に限られる場合が多いことと思ひますが、此等の方法は決して在來の所謂選手として勝敗を争はれるものでなく、各學校がそれぞれ之に参加して、平素學校が兒童を全體的に鍛鍊した其の結果を示し合はんとするものであります。此の故に吾々は全國の小學校が勝敗を念頭に置くことなしに又現在其の有する技術の優劣を問題とすることなしに一校でも多く此の大會に参加されることを熱望するものであります。

假に現在では全く兒童に水泳を教へて居ない學校でも新に適當な指導者を得て今から大會迄の期間教習を行つて御覽なさい。五十米を泳ぐ兒童を數十名得ることは極めて容易であり、従つて大會に参加することが出来るのであります。斯くして今年参加し更に來年参加して毎年参加を續ける中に、他校と比較せずとも自校のみの成績を見てそれが少しづつでも上つて行くであらう所に興味を持つて欲しいと思ふのであります。

どうぞ全國總ての小學校が参加される様學校當局の方々は勿論全國各地の官民御一同の御賛同御配慮を御願ひ致す次第であります。

日本水上競技聯盟

東京市麴町區丸之内丸ビル五八一
電話 丸之内三六〇八番

- 總裁 文部大臣 男爵 荒木 貞夫
- 名譽顧問 國民精神總動員中央聯盟會長 有馬 良橋
- 顧問 文部次官 石黒 英彦
- 會長 日本水上競技聯盟會長 末弘 嚴太郎
- 參與 日本放送協會々長 小森 七郎
- 國民精神總動員中央聯盟理事長 筑紫 熊七
- 國民精神總動員中央聯盟事務局總長 岡部 長景
- 文部省普通學務局長 小山 知一
- 委員長 文部大臣官房體育課長 岩原 拓
- 委員 文部省普通學務局學務課長 宮崎 謙太
- 文部省體育官 小笠原道生
- 文部省體育官 甲佐 知定
- 東京中央放送局報導部長 成澤金兵衛
- 東京中央放送局告知課長 中村 茂
- 國民精神總動員中央聯盟幹事 小松東三郎
- 國民精神總動員中央聯盟幹事 湛増 庸一
- 國民精神總動員中央聯盟主事 伊藤 博
- 日本水上競技聯盟評議員 石本巳四雄
- 日本水上競技聯盟評議員 本田 存
- 日本水泳競技聯盟理事長上 田畑 政治

實施要項

- 期 日 昭和十四年八月六日(日曜)
- 場 所 一、中央會場 明治神宮外苑水泳場
- 二、地方會場 イ、全國各地の廿五米或は五〇米水泳場
- ロ、全國各地の海岸、河川湖水等に臨時設備せられたる會場
- 一、本大會は全國各地に會場を設け中央會場(明治神宮水泳場)よりのラヂオの號令に依り左記實施要項に従ひ全國一齊に團體水泳を行ふ。ラヂオの設備困難なる所に於てはラヂオを用ひず左記大會順序に従ひ實施する事を得。
- 二、大會當日荒天の爲實施し得ざる地方に於ては翌日、本實施要項に従ひ之を行ふこと。
- 三、團體水泳は一人五〇米宛とし同一學校在籍兒童十名を一組とする五〇〇米繼泳とし尋常科男子尋常科女子、高等科男子、高等科女子の四級に區分す。

四、地方會場は全國の二五米又は五〇米プールたるを原則とするも、プールの施設なき處にありては海岸、河川、湖水等にして水流の危険少き適當なる個所を選び臨時會場たらしむるものとす。會場にはラヂオ受信並に擴聲裝置をなすを原則とす。

五、本大會施行の爲各府縣に地方委員會を置く。地方委員會は地方長官を顧問、學務部長を會長とし、學務課長、視學官、體育運動主事、學校衛生技師、視學、國民精神總動員地方支部及地方放送局幹部、水泳關係者等を以て組織す。

地方委員會は當該地方に於ける本大會の施行を統轄し地方會場の所要の設備、殊にラヂオの裝置、聯合會場たるべき水泳場の斡旋定、これに參加すべき學校及出場人員等につき整理指示をなすものとす。必要ある場合は聯合會場に參加すべき該地方の學校を中心とする小委員會を設置することを得。

六、地方大會は一小學校が地方委員會の承認を経て單獨に會場を設け一校兒童のみを以て大會を舉

行するものと、地方委員會に於て選定若くは設置せる會場に於て多數學校より選出せる兒童を參加せしめて舉行するものとの二種あり。後者にありては之に參加せんとするものは、一校正規泳者一〇名（補缺二名を一組とする各紙氏名及學校責任者氏名を記し地方委員會に於て定めたる期日迄に同委會宛申出づること。

七、各會場主管者は大會終了後直ちに左記要項により報告書を作製し地方委員會に提出すること地方委員會は右報告を集め速かに中央委員會（文部省體育課）宛送附すること。

- イ、會場名又は所在地、主管者名
- ロ、會場種別（プール、河川、湖、沼、海）
- ハ、參加校名、及各校參加人員（男女別）
- ニ、泳法種別（クロール、平泳、背泳、横泳、犬掻、各人名）
- ホ、各組所要時間（レコード）
- ヘ、天候、氣温、水温
- ト、一般狀況、希望事項

————— 大 會 順 序 (放送開始 午前九時二十分) —————

順序 (行 事)	(時 間)	(ラヂオ放送)	(注 意)
ラ ッ パ 吹 奏	九・三五	「氣を付け」ラツパ三回	
1、開 會	九・三五	只今から國民皆泳大會を……	
2、宮 城 遙 拜	九・三六	最敬禮 「直れ」	會場指揮者は、豫め脱帽の上宮城 に向はしめて號令をまつ
3、國 旗 掲 揚		國旗掲揚	會場指揮者は豫め掲揚する者を選 び準備せしめおくこと
4、君ヶ代齊唱(一回)	九・三七	「君ヶ代」一回齊唱 第二小節前奏後合唱	
5、武運長久祈願	九・三九	祈願默禱一分間「直れ」	
6、會 長 挨 拶	九・四〇	日本水上競技聯盟會長挨拶	挨拶中は參會者はその場に「休メ」 の姿勢に居らしめて差支へなし
7、文 部 大 臣 訓 辭	九・四五	荒木文部大臣閣下訓辭	
3、國民精神總動員 中央聯盟會長訓示	九・五〇	有馬國民精神總動員中央聯盟 會長閣下訓示	
注 意 事 項	九・五五	……………	笛聲、鐘聲の試演一回あり
9、尋常科男子五〇〇米 團體水泳開始	一〇・〇〇	笛聲! 用意 鐘聲(スタート)	實況放送
10、尋常科女子五〇〇米 團體水泳開始	一〇・二〇	笛聲! 用意 鐘聲(スタート)	
11、高等科男子五〇〇米 團體水泳開始	一〇・四〇	同	
12、高等科女子五〇〇米 團體水泳開始	一一・〇〇	同	
13、愛國行進曲合唱	一一・二〇	愛國行進曲を合唱致します (「見よ東海の空日けて」迄前奏)	
14、閉會の辭 萬歳三唱	一一・二五	委員長閉會の辭、萬歳	

注 意 事 項

- 1、全員午前九時迄に所定の會場に集合し同九時二十分迄に必ず總ての準備を完了せしめ、ラヂオ放送開始を待ち其の後の行動は凡てラヂオに依る指揮に従ふこと。
- 9、大會出場はラヂオ開始前、尋常科男子五〇〇米繼泳第一泳者を先頭に各級の順序に、別列となりスタート臺附近に集合すること。
- 8、演技者は水襪水泳用猿又若くは水着を着用のこと。
- 4、競技開始前に於て正規の演技者中に故障ありたる場合は審判長に届出でたる上補缺演技者を以て之に代らしむることを得。
- 5、演技時間は二〇分とす、少くとも二〇分後に行はるべき次の演技開始に支障を來らざるめざる様注意すること。
- 6、泳法は如何なる種類の泳法に依るも差支へなきこと。
- 7、出發合圖は全國一齊に行ふ、ラヂオなき所は此限にあらず此の場合「不正出發」を嚴重に戒しめられること。
- 8、一人の泳ぐ距離は五〇米とす、而して各級一組の人員は必ず十名とし、五〇〇米繼泳とす。
- 9、一校の選出組數は、地方委員會の指定せる臨時會場に出場する場合は各級別に制限せらるゝことあるも、學校自ら之を管理する單獨の會場にありては特に制限せられず。
- 10、自ら管理する單獨の會場にして尋常小學校の場合「大會順序」(11)、(12)にも更に尋常男女を編成し出場するも差支なきこと。高等小學校に於ても右と同様逆に編成するは差支へなき事。

演 技 に 就 て

- 1、審判長は審判員の間意見の相違ある場合之に決定を與ふる外規則にては判斷し難き總ての疑義につき判定す、而して其の決定は最終とす。
- 2、審判員は出發引繼の審査並に到着順位につき決

定する外出發合圖より到着迄總ての事項を監察判定す。

- 3、計時員は各一水路づゝを擔當し團體水泳の所要時間を測定す(所持の時計によるも差支へなし)、秒を單位とし、端數は切り捨つ。
- 4、記録員は實施要項第七項に従ひ各演技の状況を完全に記録し審判長の署名を添へ速に會場主管者に提出し主管者は之を遲滞なく地方委員會に提出すべし。
- 5、通告員は演技の結果その他を審判長の交付せる材料に依り一般に通告すべし。
- 6、召集員は水路を定め各校責任者と連絡をとり演技開始五分前までに待機の姿勢をとらしむべし。
- 7、中央會場に於ける審判長の「笛聲」の豫令にて團體水泳出場者中第一泳者は各自の水路につき「用意」にて出發可能の姿勢をとり、鐘聲により出發す、鐘聲以前に出發したるものは失格とし、鐘の打ちなほしは行はず、但し鐘聲に先んじて出發したる場合も出發臺に上りて再び出發をなす場合は失格を免る「用意」により出發可能の姿勢をとりたる後、鐘聲までの間に動くときは鐘聲に先んじて飛び出す恐れあるを以て「用意」により出發可能の姿勢をとりたる後は成るべく動かざるやう注意すべし。
- 8、第一泳者の出發するまでは第二泳者以下は第一泳者よりも少くとも「二米」以上の距離を取りて待機すべし。第一泳者が出發したる時は第二泳者は出發臺の上に立ち第一泳者の到着をまつて出發すべし。第二泳者の出發する迄は第三泳者以下は第二泳者よりも少くとも「二米」以上の距離を置き順番を待つべし。以下同様とす。
- 9、引繼は前泳者が到着後に出發するを要す、前泳者が到着せざる前に飛び出したる時は失格とす、但しこの場合に於ても再び出發し直したる時は失格を免る。

昭和十四年日本選手權水上競技大會 兼第十二回ヘルシンキ大會豫選會

本大會の成績に依り男子競泳オリンピック代表選手及同候補選手並に飛込水球各競技の日本代表選手を銓衡す。

日時 昭和十四年八月十二(土)十三日(日)
十四日(月) 競泳(夜間)水球(晝間)

飛込(晝間)

尙夜間の競泳時間に水球、飛込(決勝三等迄の入賞者)のエキシションを行ふ豫定。

場所 明治神宮外苑水泳場、水球競技は規則の許されたる最大面積のものを使用す。

水 泳 指 導 者 協 會 第 二 回 定 期 總 會

昭和十四年五月十四日（日曜日）午後三時神田一ツ橋如水會館矢野別館ニテ開催

(1) 會計報告及予算審議次ノ如シ

昭和十三年度會計報告

(イ) 收入ノ部

加入者104名 円 332.50

(ロ) 支出ノ部

書冊(年鑑、水泳) 152.06

通信費 11.44

發送費 22.83

消耗品費 29.31

バッヂマーク代(分納一回分) 48.00

合計 263.64

(ハ) 差引残(次年度ニ繰越) 68.86

昭和十四年度豫算

(イ) 收入ノ部

前年度繰越金 68.86

會費(150名) 450.00

合計 518.86

(ロ) 支出ノ部

書冊(年鑑150 水泳1,200) 307.50

通信發送費 75.00

消耗品費 30.00

事業費 50.00

バッヂマーク代(分納二回分) 48.00

予備金 8.36

合計 518.86

(2) 會員ノ自己紹介

(3) 陳述意見並ニ報告ノ主ナルモノ

會員ニ對スル特權附與ニ就テ 吉田勝平
 十三年度ニ於ケル會員ノ活動狀況調査報告 石井廣一
 部門別高度練習方案 森島安太郎
 出征軍人ニ對スル水泳教育 田頭亨

監察員ヲ設ケ全國視察ノ件
 警官ト青年學校ノ水泳指導
 事業ニ就テ

江口 宇
 木野 敬一
 松澤 一鶴

(4) 會 食 (午後六時三十分)

席上松澤氏北支旅行談アリ

(5) 映 畫 (午後七時三十分乃至九時)

森秀臣氏米國ライフセービング協會ヨリ入手ノ
 映畫三卷並ニ東京高等商船ニ於ケル救助法講習
 狀況二卷ヲ觀賞非常ニ參考トナル

(6) 當日ノ參會者 (〇ハ幹事)

加福 均三	〇松澤 一鶴	〇小林 三次
柏原 政勝	〇渡邊 延	〇石本巳四雄
柴田 隆二	保谷 俊平	笹島彦次郎
森 秀 臣	〇能崎 文雄	白山源三郎
本 田 存	(以上特別會員)	
森島安太郎	中村 恭治	稻村新太郎
安達 誠	田頭 亨	福士直次郎
中村 常郎	江口 宇	木野 敬一
〇吉田 勝平	秋山 裕	〇石井 廣一
左近允正矩	分林 健兒	鈴木 佐平
(以上正會員) 合計 28 名		

不參者中委任狀提出者 (22)

伊藤富美子	野村 正	油井 清源
千金良辰男	宮崎 正	内藤 徹
永見 淑子	玉崎 敏雄	稻田 千年
吉村順二郎	細井 正	今村 竹利
沼 正治	佐野 幸	山下 輝男
氣駕 清治	林 平三	濱田 勘太
外上 安治	鈴木 暉	中村 豊
出口 直臣		

次ニ本協會ノ増強ヲ計ル爲メ未加入指導資格者ノ
 勧誘並ニ現在會員ノ繼續手續等ソレゾレ幹事ニ於
 テ努力スベキモ之等ニ關シ全會員ノ協力ヲ切望ス
 (以上)

昭 和 十 四 年 度 水 泳 指 導 者 講 習 會

昭和五年以來を重ねること正に十回で最初二回は
 文部省主催昨十三年第九回が聯盟と厚生省の共同主
 催となつてゐる何れにしても聯盟の活動には變りは

ない。次に本年は普及徹底の爲め大阪に於ても殆ん
 ど時間を同ふして行つた之れは聯盟として最初の試
 みであり將來一層努力せんとするものである。都合

上ここには東京のみの記事を掲げ大阪の分は次號に譲ることとする。

東京講習會實施表(別紙ノ通り)
 講師委員、助手(別紙ノ通り)
 受講者(別紙ノ通り)

末弘會長ノ講演要領

イ、日本古來の泳法トソノ發達

ロ、標準トナルベキ泳法

ハ、國民皆泳=就テ指導者トノ訓練

佐々木厚生省體力局長講演要領

イ、體位向上ト水泳

ロ、現下國家ノ要求スル最大ナルモノハ國民ノ健康ナリ

ハ、敢テ指導者=望ム

東京講習會實施表

		午 前		午 後		夜	
五	水	開書式 末弘 佐々木局長		指導者心得 本 田	技術者程度査閲 クロール、平泳、 伸立泳		
六	木	標準泳法 白山	休	クロール 齋藤	同 上	休	◎水泳場構築 松 澤
七	金	競泳法=就テ クロール、平泳 背泳 松 澤		背泳 齋 藤	浮身 松 澤		
八	土	水泳醫事 金子 補助運動 柳田	體育館	伸泳 佐々木、原	扇平泳 佐々木、原		◎水泳史 三上
九	日	競技技術 齋藤	憩	平泳 磯野、栢原	潜水 佐々木 立泳 白山	憩	
十	月	飛込技術 原秀 水球" 笹島		同 上	(千駄谷尋高) 初心者指導法 見學		映畫、茶話會
十一	火	救助法 森		救助法 森	飛込、證書 佐々木 授與式 自由練習		

○場所ハ國民體育館(神田一ツ橋)ヲ主用シ一部ノ科目ハ、YMCA、神宮プール、共立女子職業ニ於テ實施セリ

昭和十四年七月五日

厚生省後援

日本水上競技聯盟主催

全國水泳指導者講習會々員名簿

日本水上競技聯盟指導普及部

— 講 師 —

末弘 巖 太 郎

佐々木 芳 遠

(泳 法) 本 田 存

(泳 法) 松 澤 一 鶴

(水 泳 史) 三 上 節 造

(泳 法) 齋 藤 巍 洋

(泳 法) 栢 原 政 勝

(泳 法) 佐々木 救

(泳 法) 原 正 一

(泳 法) 白 山 源 三 郎

(救 助 法) 森 秀 臣

(水 泳 醫 事) 金 子 魁 一

(補 助 運 動) 柳 田 亨

(泳 法) 磯 野 百 男

(飛 込) 原 秀 夫

(水 球) 笹 島 彦 次 郎

— 委 員 —

小 林 三 次

渡 邊 延

能 崎 文 雄

助 手

河 野 日 出 雄

大 石 端

川 田 稔

深 川 義 彦

伊 丹 廉 夫

富 田 國 男

吉 田 勝 平

田 頭 亨

米 谷 義 郎

佐 藤 彌 市

左 近 充 正 短

須藤光代
 増山ちせ
 河村静子
 丸山ヤス子
 渡邊常子

—講習員—

(番 號)	(氏 名)	(地 方)			
1	枳 穀 恒 男	(横須賀)	33	上 瀧 昇	(東 京)
2	三 野 忠 勇	(横須賀)	34	三 橋 了	(東 京)
3	神 崎 永 次 郎	(横須賀)	35	奥 谷 内 信 一	(東 京)
4	森 本 信 一	(横須賀)	36	新 井 孝 吾	(東 京)
5	叶 内 千 代 吉	(横須賀)	37	殿 塚 正 一	(千 葉)
6	堀 野 三 四 吉	(横須賀)	83	中 村 勝 俊	(東 京)
7	後 藤 惠 喜 知	(横須賀)	39	福 田 正 一 郎	(東 京)
8	須 藤 佳	(横須賀)	40	河 田 稔	(東 京)
9	大 石 義 雄	(吳)	41	母 家 一 郎	(東 京)
10	冲 達 男	(吳)	42	齋 藤 憲	(東 京)
11	諏 訪 順 造	(東 京)	43	大 久 保 直 一	(東 京)
12	星 野 誠 一	(東 京)	44	布 施 十 二	(東 京)
13	上 原 正 元	(千 葉)	45	栗 生 淳 二 郎	(東 京)
14	大 澤 勝 茂	(東 京)	46	古 宇 田 六 郎	(東 京)
15	角 原 虎 市	(東 京)	47	村 田 朝 雄	(東 京)
16	太 田 美 津 男	(鳥 取)	48	杉 山 國 次	(東 京)
17	武 田 安 齋	(東 京)	49	下 村 隆	(東 京)
18	坂 理 博	(東 京)	50	奈 須 研 太 郎	(千 葉)
19	河 野 雍	(東 京)	51	本 田 恒 夫	(東 京)
20	高 田 專 之 丞	(東 京)	52	奥 山 亨 吉	(東 京)
21	杉 浦 博	(東 京)	53	澤 田 又 一	(東 京)
22	塚 本 秀 彌	(東 京)	54	鈴 木 安 之 丞	(東 京)
23	今 泉 平 一	(東 京)	55	渡 邊 幸 治 郎	(東 京)
24	池 野 治	(東 京)	56	白 井 一 二	(東 京)
25	横 島 泰 峨	(東 京)	57	海 老 名 謙 一	(東 京)
26	佐 藤 幸 一	(東 京)	58	中 山 太 郎	(東 京)
27	鈴 木 馨	(北 海 道)	59	佐 藤 武 久	(東 京)
28	織 田 正 久	(東 京)	60	菱 沼 太 郎	(東 京)
29	掬 川 廣 照	(神 奈 川)	61	龜 井 末 男	(東 京)
30	宮 本 泉	(東 京)	62	石 渡 正 治	(東 京)
31	鈴 木 三 資	(東 京)	63	高 田 喜 三 治	(東 京)
32	關 根 佳 夫	(神 奈 川)	64	飯 島 藤 十 郎	(東 京)
			65	麥 島 静 江	(德 島)
			66	永 見 淑 子	(東 京)
			67	彦 坂 英 子	(東 京)
			68	今 吉 尙 子	(東 京)
			69	山 田 文 子	(東 京)
			70	小 泉 幸 江	(東 京)
			71	田 中 丸 京 子	(東 京)

昭和十四年度水泳指導者資格検定

一、無試験検定

本年四月限りとして各加盟団体の推薦による詮衡を行ひ指導者たるの資格を與へたが無試験検定は之れで打ち切りとし今後総て検定試験を受ける

ことを要する。

資格を得たる者の氏名(別紙綴)

一、検定試験

本年度水泳指導者講習會=引キ續キ本検定ヲ實施

ス

試験日割(別紙ノ通り)

及第者氏名(別紙ノ通り)

指導者推薦(各加盟團體ヨリ) 検定委員會

(甲) 新規推薦

(番號)	(氏名)	(加盟團體)
1	田中正雄	北海道水聯
2	竹原榮	"
3	鈴木馨	"
4	赤塚英夫	"
5	酒井源義	松本水協
6	神澤正四郎	"
7	百瀬測	"
8	庄司三郎	山形體協
9	池田順太郎	"
10	堀江榮藏	新潟水協
11	齋藤喜八郎	"
12	野村佐多雄	"
13	藤木三郎	京都水聯
14	寺石延也	"
15	樋口榮一	"
16	星野美枝子	"
17	中川馨三	"
18	畑哲夫	"
19	竹内嘉信	"
20	河原田巖	"
21	辻本一郎	"
22	井田勇雄	三重水聯
23	北村幸次	"
24	垂髮猛雄	"
25	藤原淳一	"
26	小山長重	松本水協
27	會田義都	東京小學校聯盟
28	松尾雄斗吉	"
29	飯田珺	"
30	松田保彦	"
31	野村侯三	"
32	中村泰司	廣島體協
33	高橋雅紀	"
34	平川裕智	"
35	澤枝榮七	石川體協
36	中濱耕三	"
37	堀義布	"
38	垣内芳子	靜浦游協
39	松本治一	京都水聯
40	古閑久子	名古屋水聯

41	南谷靖	"
42	中野優	"
43	伊達進	"
44	大倉篤子	"
45	山崎いづ子	"
46	葛谷榮一	"
47	原留雄	"
48	三谷鉦房	"
49	岡田清比古	"
50	山中正明	"
51	安達榮	"
52	宮崎和生	"
53	兵頭彌平	濱名灣游協
54	池谷茂	"
55	安部茂	"
56	宮崎覺	"
57	大竹和三郎	"
58	大石良夫	"
59	宮本翠	"
60	土屋勝次	"
61	石井重晴	"
62	今關將	横濱水協
63	牛木宇平治	大阪水協

—指導者推薦—

(乙)昭和十一年推薦(年令以外當時ノモノ)番號

ハ甲=モ推薦

(番號)	(氏名)	(加盟團體)
1	佐藏毅雄	山形體協
2	高橋佐正	"
3	内館長一郎	岩手水協
4	田内正司	横濱水協
5	市川馨	"
6	富永靜郎	三重水聯
7	加知正巳	"
8	原田昇	"
9	直田村太郎	"
10	野呂高三	"
11	山中正明	"
12	杉山隆祐	"
13	山内孝徳	"
14	藤谷恬	"
15	鈴木春男	"
16	近藤甚吉	"
17	服部芳男	"
18	中村定雄	"
19	伊藤進	"

- 20 高田秀男 富山體協
- 21 朝田新一 "
- 22 長谷田義光 "
- 23 宮腰清險 "
- 24 小島喜太郎 石川體協
- 25 北村久險 "
- 26 山上善四郎 "
- 27 高田良 "
- 28 本田次雄 "
- 29 吉本一子 "
- 30 西田泰助 香川體協

—海軍—

- 鈴木兼吉 三澤善美 川村松吉
- 石井傳藏 神田恒夫 深澤源久
- 高橋重則 角井濱吉 牧竹市

—岡山縣體協—

- 平田讓三 中西正巳

(以上無試驗檢定詮衡通過)

水泳指導者資格檢定試驗(東京)

昭和十四年度日本水上競技聯盟水泳指導者資格檢定試驗ハ左記ニ依リ實施セリ

試驗日割

午 前		午 後	
七月十二日	◎標準泳法 ◎救助法	平救助 泳法水	◎水◎醫事 競泳概說 ◎指導者心得
			ク ロ ー ル 立 伸 泳 泳
七月十三日	◎水 球 ◎飛 込	飛 込 背 泳	(成績審査)
			發 表

備考 試驗ハ國民體育館 ◎印ハ簡單ナル筆答

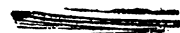
昭和十四年檢定名簿

(番 號) (氏 名)

- (合格者名簿)
- 22 大久保直一
 - 23 殿塚正一
 - 24 高田三喜治
 - 25 深川義彦
 - 26 飯島藤十郎
 - 27 塚本秀彌
 - 28 坂理博
 - 29 今泉平一
 - 30 宮本泉
 - 31 河野雍
 - 32 諏訪順造
 - 33 村田朝雄
 - 34 生出勇一
 - 35 佐藤鈴雄
 - 36 高木留吉
 - 37 岡田正勝
 - 38 今吉尙子
 - 39 彦坂英子
 - 40 山田文子
 - 41 田中丸京子
 - 42 小泉幸江
 - 44 高橋寬
- (番 號) (氏 名)
- 1 堀野三四吉
 - 2 後藤惠喜知
 - 3 鈴木馨
 - 4 杉浦博
 - 5 太田三津男
 - 6 鈴木三資
 - 7 布施十二
 - 8 下村隆
 - 9 齋藤憲
 - 10 母家一郎
 - 11 澤田又一
 - 12 高田專之丞
 - 13 福田正一郎
 - 14 奈須研太郎
 - 15 本田恒夫
 - 16 上瀧昇
 - 17 池野治
 - 18 掬川廣照
 - 19 新井孝君
 - 20 大澤勝藏
 - 21 星野誠一

—各試驗擔當委員—

- 平 泳 栢原正勝
- 救助法 { 實技 森 秀 臣
筆答
- 潜水 水 } 佐々木 救
- 飛込 泳 } 白山源三郎
- 標準泳法(筆答) } 原 秀 夫
- 立 泳 } 金子魁一
- 飛込競技(筆答) } 齋藤巍洋
- 水泳醫事(筆答) } 松澤一鶴
- ク ロ ー ル } 本 田 存
- 背 泳 } 笹島彦次郎
- 競技概說(筆答) } 原 正 一
- 指導者心得(筆答) } 原 正 一
- 水 球(筆答) } 原 正 一
- 伸 泳 } 原 正 一



本聯盟役員出征者の通信(其六)



湯淺さんからの帝大新聞有難く拜見致しました、貴兄の便りにも久方振りに接して嬉しく思つた、早速戦地の近況でも御便りするつもりで居たところ、敵の奴郎が近頃頗る暴れ出し、その應接に忙しく、つい永引いて非常にすまんと思つて居る

今居るところは第一線でも非常に敵に近い、河一ツ向ふには敵が右往左往して居る、毎日毎夜出て来て砲弾をブツパナしては逃げる、晝の日にシヤアシヤアとして陣地構築に出没する、こちらは山の上から、ひねもすそれを監視して居る譯だが、時にはシヤクにさわるので、山のテツペンで敵に尻を向けて糞をする、と敵が風上で放糞する奴は誰だとなる。……これはうそだが、一口に言えばまあこんなところで警備についてゐる。夜は眠つたり眠らなかつたり、相當緊張はして居るが、よく考へて見ると子供の戦争ごつこの様で可笑しくなつたり、月の美しい夜等をつくづくあさましくなつて溜息が出たりする。

戦地で二度目の夏を迎えましたが、南支の暑さはすさまじいもの、何しろ太陽が北から出て北に入る、汗は體からふき出るし北斗七星はとてつもなく上の方にきらめくし、暗さに關する凡る我等の概念が訂正されねばならなくなつた

.....

聞けば中川さんが嫁さんに行つた由、善良なるマダムが出来ることと思ふ、N・S・Rに其の後變つたことはありませんか。

會社のセニョリータ連中も先日の兄の便りで、虫がついたとことまで承知して居るが、虫干はまだか!? 皆さんによろしく。

藤原 豊

水泳 No. 64 を御惠送下さいまして誠に有難う御座いました、戦地で讀むと一入懐かしく存じます、故岩切君の追悼座談會の記事を讀み感概一入です、遙かより哀悼の意を表します。當方明暮れの單調な平和な日を送つて居ります、皆様もシーズンに入り益々御多忙の事と存じます。御發展を祈つて止みません皆さんによろしく。さよなら

河津憲太郎

暑中御伺ひ申し上げます

御無沙汰致しました、小生去る五月廿二日應召せ

られまして六月十六日當隊に入りました、事變當初よりの待望が叶ひ喜こんで居ります。内地も暑いのでせうが當地の暑さは又格別毎日百三十度以上です。皆様の御自愛專一に祈り上げます。頓首

柳瀬 勝得

謹啓、時下深緑の候愈々御健勝奉慶賀候、

陳者小生儀第一航空教育隊に入隊以來四ヶ月餘一方ならぬ御鞭達を賜り厚く御禮申上候、

今般陸軍航空兵科幹部候補生に採用せられ〇〇陸軍飛行學校に分遣を命ぜられ無事入校仕候間乍他事御安心被下度候、今後益々奮勵努力一意報國の誠を堅くし初志貫徹に邁進する覺悟に候へば何卒一層の御鞭達賜り度偏に御願申上候

向暑の折柄皆様の御健康を御祈申上候先は不取敢御禮旁々御挨拶迄如斯御座候、敬具

篠塚 睿

其後皆様御變なく御過ごしの事と存じます、

御蔭様にて小生も無事元氣にて軍務に勵んで居ります、今夏は亦御多忙の事でしょう、昔が思ひ出されます、内地新聞を見ると先づスポーツ欄、水泳記事に目が注がれます、當〇〇地は熱帯植物、椰子、芭蕉、榕樹、波羅密珍らしい小鳥等、南國情緒たつぷりな紙上ニユエヌ寫眞等見られる通りな所ですが、朝夕は大變冷たく凌ぎ善いです、元氣でやります、はるか南十字星の輝く〇〇より皆様の御健祥を祈ります。さよなら

河津憲太郎

前略、愈々大命降下致し來る十五日入營と決定仕候今夏を楽しみ居候得共遙かの大陸に於て邦家のプールの飛沫を感じる事と存じ候木村象雷氏の後を追ふ皆様に宜敷しく御願申上候 敬具

竹林 隆二

拜啓、酷暑の候尊堂益々御清榮の段奉慶賀候陳者小生在京中は種々御高配に與り誠に有難く厚く御禮申上候、尙又出發の際は御多用中態々驛まで御見送り戴き誠に恐縮に存じ候、先は右御禮旁方暑中御見舞申上候 敬具

小林 榮三

拜啓久しく無音に打過ぎ申譯御座無候、聯盟の諸賢御變り無候也御伺申上候、私五月上旬より南支地方に出發、目下廣東に滞在中に候、當地方治安も可

成に快復住民の復歸者も三分の一の由にて晝は中々賑盛に御座候、邦人も六千に近く邦人商店軒を並べ日用品は不充分乍ら當地にて事足る状態に御座候先

は略儀乍ら御無沙汰の御詫旁々近況御報告まで故斯御座候 敬具

宍道洋一

臨時代議員會議事録

○昭和十四年七月八日午後六時 於丸ノ内中央亭
出席者左の如し。

聯盟本部

會長 末弘 巖太郎
理事長 田畑 政治
名譽會計 大橋 國太郎
評議員 加福 均三、野村 憲夫、佐々木 救
常務理事 松浦 武雄、原 秀夫、笹島彦次郎
清水 康男

出席加盟團體

北海道水上競技聯盟	田澤 正松
山形縣體育協會	竹内 八郎
福島縣體育協會	保谷 俊平
茨城縣體育協會	小林 三次
關東水泳協會	磯野 百男
新潟縣水泳協會	小野塚一郎
野尻湖游泳協會	荻原 俊雄、高橋庄之助
靜浦游泳協會	佐藤 潔、小池 禮三
濱名灣游泳協會	山本 操
石川縣體育協會	柴原 恒雄
名古屋水上競技聯盟	齋藤 劍次、奥田 正勝
三重水泳聯盟	小出 義彦
京都水上競技聯盟	谷口 辰三
大阪水泳協會	藤田 明
兵庫縣體育協會	小山賢之助
香川縣體育協會	渡邊 延
松江體育協會	米田勇次郎
和歌山縣體育協會	前川 重樹
廣島縣體育協會	山田 弘
愛媛縣體育協會	深谷 俊明
福岡水泳協會	葉室 鐵夫
白杵體育協會	原岡 春雄
山口縣體育協會	齋藤 巍洋
群馬縣體育協會	松澤 一鶴
日本學生水上競技聯盟	小柳 當男、横尾 清吾 寺田 登

以上二十五團體出席
缺席團體十四團體中

委任狀提出しあるもの(九團體)

岩手縣水泳協會、千葉縣水泳聯盟、横濱水泳協會
富山縣體育協會、岡山縣體育協會、高地縣體育協會、
徳島水上競技盟、朝鮮體育協會、臺灣體育協會

議事録

一、明治神宮體育大會水上競技大會の件

明治神宮國民體育大會水上競技要項

一、種別

1. 實業團對抗競泳

自由形(五〇米、一〇〇米、二〇〇米、四〇〇米)背泳(一〇〇米)平泳(二〇〇米)
二〇〇米繼泳、三〇〇米混繼泳

2. 小學校教員競泳

自由形(一〇〇米)背泳(一〇〇米)平泳(一〇〇米)

3. 青年團府縣對抗競泳

八〇〇米繼泳 三〇〇米混繼泳 二〇〇米
潜水運搬繼泳

4. 男子中等學校府縣對抗競泳

自由形(一〇〇米、四〇〇米)背泳(一〇〇米)平泳(二〇〇米)八〇〇米繼泳
三〇〇米混繼泳

5. 女子中等學校府縣對抗競泳

自由形(一〇〇米 二〇〇米)背泳(一〇〇米)平泳(二〇〇米)二〇〇米繼泳、
三〇〇米混繼泳

6. 大學、高等專門學校對折繼泳

四〇〇米繼泳 三〇〇米混繼泳

7. 大學、高等專門學校對抗飛込競技

8. 日本水球代表(第一軍、第二軍對抗)

9. 三鎮守府對抗海軍競泳 10 日本泳法

二、參加者選出方法

1. 實業團對抗ハ官廳、會社、商店ヲ單位トシ其ノ推薦ニ依ル。

2. 小學校教員競泳ハ個人競技トシ當該小學校長ノ推薦ニ依ル、男、女中等學校府縣對抗ハ府縣單位ノ豫選又ハ推薦ニ依ル、(豫選ヲ行フ場合

は本年度水上競技日程ノ關係=依リ九月第一日曜最適)

4. 海軍鎮守府對抗ハ各鎮守府の推選=依ル
5. 日本泳法、大學専門學校對抗繼泳、全飛込及ビ水球競技ハ日本水上競技聯盟ノ推薦=依ル

三、期日及場所

九月二十一日、二十二日、二十三日、二十四日
神宮外苑水泳場

- | | |
|-----|---|
| 第一日 | 青年團府縣對抗豫選
小學校教員競泳豫選 |
| 第二日 | 青年團府縣對抗決勝
小學校教員競泳決勝
女子中等府縣對抗豫選
女子中等府縣對抗決勝 |
| 第三日 | 實業團對抗豫選
男子中等府縣對抗豫選
日本泳法 |
| 第四日 | 實業團決勝
男子中等府縣對抗決勝
海軍鎮守府對抗決勝
大學専門學校對抗繼泳
日本水球代表第一軍、第二軍對抗
大學専門學校對抗飛込競技
日本泳法 |

- 四、申込場所 厚生省體力局體育課内
明治神宮國民體育大會
演技部水上競技係宛

五、申込ノ切 九月三十日到着迄 以上

右に對し野村氏より説明左の如し、「本年の神宮大會の中水上競技は本聯盟が請負つてやる事となり、聯盟の原案通り厚生省で採用せられ、左の通り決定した次第である。参加加盟團體は各府縣と協力して豫選を行つて戴き度い。」

之に對し原秀夫氏より實業團に飛込を入れるべしとの提案ありたるも、本年は原案通り行ふこととし明年よりは飛込及般女子競技を入れる事を考慮する旨田畑理事長より答辯あり、原案通り可決、

尙藤田明氏より府縣對抗中等學校により從來のインターミドルが無くならぬやうにせられたしと希望あり、田畑理事長及び野村氏よりかかる憂なき旨説明あり。

又齋藤劍次氏より、神宮の豫選執行につき加盟團體が縣より無視さるゝ虞れあるにつきかかる事なきやう手段をとられ度しと希望ありたるに對し、末弘會長、田畑理事長、松澤一鶴各氏よりかかる虞は次第に解消しつゝある事情及び之が對策を取る旨答辯

あり、原案承認

國民皆泳全國學童水泳大會の件

第二回を本年行ふが大體去年の大會に準じ、昨年の各地方よりの希望を參酌して期日を八月六日とし放送局との打合せにより本會順序をスムーズに行ふ爲、行事の時間を適當に按排し行ふ事とした本年は東京府及大阪府等に重點を置き明年より他の府縣に之を基準として模倣普及せしめるやう手配する豫定である、と田畑理事長より説明あり要項を承認

熱海初島團體長距離競泳全國大會の件

大體昨年通りの要項に依り七月三十日に行ふ、本年は荒天の季節を避け驅逐艦は海軍の作戰上の都合に依り巡遣されないが静岡縣の富山丸を使用し、危険防止の萬全の策を取り、昨年に比しガソリンも豊富に配給されるを以つて、各加盟團體は之に御協力精々参加方御勵獎下され度し、(大橋報告)

山梨縣水上競技聯盟新加盟の件

過般理事會を通過せる右聯盟新加盟承認せらる。

ヘルシンキオリムピック大會の件

一、ヘルシンキ大會には男子競泳第一主義を採用しコーチ、マネージャーとも廿名以内の少數チームを編成して参加、男子競泳世界三連覇の實現に全力を傾倒す、又男子飛込も優勝の可能性ある場合には二名参加せしめる。水球及女子の全競技は参加せず

二、ヘルシンキ遠征の爲には少くとも五月十五日乃至二十日に出發する事を要する故、明年最終豫選會を戶外にて開催する事は不可能なるに付き本年度の日本選手權大會を以てオリムピック豫選會とし、オリムピック選手の大部分を茲で決定す、尙インターカレッヂ、及び冬季の室内大會の成績に依り、補員を取り陣容の整備を計る。

三、従つて本年度の日本選手權大會の男子競泳の種目はオリムピック種目に限る、但し八百米リレーは二百米を以て之に充たする。

女子は昨年通り、

日本選手權大會参加資格は左の通り

- イ、前年度選手權保持者
- ロ、オリムピック第一次候補
- ハ、全國高專大會六等迄入選者
- ニ、東部西部中等大會各六等迄入選者
- ホ、各加盟團體主催豫選會入選者

右原案田畑理事長より提出され、原案通り可決各加盟團體としては男子競泳はオリムピックに参加しさえすれば勝ち得るといふ事を世人に認識せしむるやう御努力あり度しと理事長より希望を述べ散會となる。(以上)

聯 盟 日 誌

5月18日	水泳 64 號發行 小學校常務理事會	事務所	6月28日	遠泳打合會	中央亭
19日	三大學打合會	事務所		標準泳法委員會	事務所
20日	關東學生水球リーグ戦始る	神宮プール	30日	總務委員會	東京朝日新聞社
21日	水球リーグ実行委員會	事務所		女子部委員會	事務所
26日	三大學打合會	事務所	7月1日	講習會講師依頼狀發送同助手	
27日	オリンピック対策理事會	事務所		第二回團體長距離競泳全國大會役員依頼狀發送	
	水球リーグ戦	神宮プール			
28日	神宮プール開キ	神宮プール	3日	國民皆泳全國學童水泳大會各縣知事學務部長發送	
29日	指導普及委員會	事務所		學務課長及文部省國民精神總動員中央聯盟	
30日	競泳池公認委員會	事務所		日本放送協會全國各地放送局等に依頼狀發送	
6月3日	小林榮三氏歡迎會兼評議員會	花月			
	水球審判委員會	幸樂			
4日	早慶對抗水上競技大會	神宮プール	4日	水泳競技委員會	事務所
6日	小學校委員會	事務所		代議員通知發送	
7日	水球リーグ戦	神宮プール	5日	團體長距離競泳全國大會第一回	
10日	水球リーグ戦	神宮プール		準備委員會	中央亭
11日	明立日三大學對抗水上競技大會	神宮プール		東部高商メンバー交換會	事務所
12日	指導者講習會委員會	事務所	6日	水泳競技委員會	事務所
13日	技術委員會	幸樂	8日	臨時代議委員會	中央亭
15日	小學校委員會	事務所		學聯實行委員會	事務所
16日	飛込競技委員會	事務所	10日	國民皆泳全國學童水泳大會東京	
21日	理事會	事務所		府打合會	中央亭
	水泳 65 號發行		14日	國民皆泳全國學童水泳大會小學	
22日	田畑松澤野村鷺田	重要會議		校打合會	事務所
	學聯實行委員會	事務所	15日	三大學決算書作製	事務所
	百貨店聯盟招待會	事務所	17日	編輯委員會	事務所
	學聯飛込競技委員會	事務所		學聯飛込競技委員會	事務所
23日	團體長距離競泳打合會	事務所	18日	學聯實行委員會	事務所
	年鑑一千部發所			學童水泳大會	朝日新聞社
26日	本聯盟選出體育協會國際委員清水康男氏入		19日	緊急理事會	事務所

… 編輯のあと … 灼熱の太陽を身に浴び水シブキの飛沫に躍動の近頃となつた。先づ彼地に在る出征兵士及我等が友、そして諸先輩にはるか誌上を通じて敬意を表す次第。本聯盟も來年のヘルシンキ大會を控へ、此處に、早や八月のシーズンを迎へて、本格的の急がしさに追はれてゐる此頃だ。編輯室も非常な手薄を感じ乍ら、本年度上半期のクラス選手詮衡を此七月卅一日で一時メ切り、甚だ大雑波では有るが各競技會を誌上にまとめて見たが然し皆さんの御期待に添ふ様な編輯に時を得なかつた事を非常に残念に思ふ次第。我々の機關雜誌で有る當誌出來得る限り多くの人々に許される限り多くの投稿を得て伸びて行く事を望み、雑誌水誌の上に御鞭撻あられん事を願ふ。 (編輯室)

日本水上競技
聯盟機關雜誌

水 泳

第 66 號

昭和十四年 八月三日 納本
昭和十四年 八月五日 發行

(日本水上競技聯盟代表)
編輯兼發行人 宍 道 洋 一

印刷所 大日本印刷株式會社
牛込區市谷加賀町一の十二

定價30錢 年8回發行豫定・8回分 ¥2.40

豫約申込者に限り頒布す (1年前金豫約は送料不要)

廣告料 10圓乃至35圓 御申込次第詳細回答

發行並 東京市麴町區丸ビル581
申込所 日本水上競技聯盟編輯事務所
振替口座東京三九九一九番